【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2111-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展

【年度計画】

展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

(4館共通)平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。

(東京国立博物館)

ア　定期的な陳列替の実施（年5,500件）

イ　陳列総件数　約7,200件

ウ　「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。また、平成館考古展示室のリニューアルは前年度に引き続いて行い、27年10月より再開する。法隆寺宝物館は5月下旬から空調設備等改修に伴い閉館し、28年3月中旬から再開する。

エ　特集

特別展「鳥獣戯画」の開催に合わせた「鳥獣戯画と高山寺の近代」(4月28日～6月7日)、東洋館の展示を中核に据えた企画「博物館でアジアの旅」期間中に「中国書画精華」(9月8日～11月29日)、「漢･唐時代の陶俑」(9月1日～12月23日）等を開催する。すでに恒例となった「博物館に初もうで」、「博物館でお花見を」関連企画、上野動物園・国立科学博物館との動物を取り上げた連携企画「美術のくにの象めぐり」(4月7日～5月17日)、台東区立書道博物館との連携企画「顔真卿と唐時代の書」(12月1日～28年1月31日）などを実施する。他に「日御碕神社の甲冑と模写図」(4月7日～7月5日)、「聖母マリアの系譜」(7月7日～8月30日）等。

オ　文化庁関係企画

「平成27年 新指定 国宝・重要文化財」(4月21日～5月10日）にて、平成27年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】

(東京国立博物館)

ア　定期的な陳列替を実施し、6,930件の展示替を行った。

イ　陳列総件数　8,911件

ウ　本館１階展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館の展示ケースの補修を行った。また、展示環境の改善のための工事を実施した平成館1階考古展示室を27年10月から再開した。

エ　31件の特集を実施した。

オ　「平成27年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(4月21日～5月10日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	747,944人	362,470人	S		324,597	416,430	484,429	587,528
陳列替件数	6,930件	5,500件	A		4,914	6,989	5,708	5,506
陳列総件数	8,911件	7,200件	A		7,394	9,190	8,824	8,161
特集陳列等実施回数	31件	－	－		32	47	33	22

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】法隆寺宝物館の改修工事による休館にもかかわらず、平成館1階考古展示室の展示再開、黒田記念館のリニューアルオープン、特別展に関わる特集や「博物館に初もうで」など、展覧事業の充実によって、目標値の200%を上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 平常展示とともに、テーマ性を持った特集「博物館でアジアの旅」にかかるイベント等を充実させたことによって、国内外の多く来館者があり、中期計画を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展

【年度計画】
(4館共通)平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(京都国立博物館)
ア　明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための平常展展示計画を検討する。
イ　定期的な陳列替を行い、テーマ性を持った展示を行う。(陳列替件数　年700件)
ウ　陳列総件数　約1,000件
エ　特別展示室において、部門を超えた特集陳列を行う。
・「葵祭の美術」(4月21日～5月31日)・「日本の仮面」(6月9日～7月20日)・「獅子と狛犬」(28年1月2日～2月21日)
・「雛まつりと人形」(28年2月26日～4月10日)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
ア　明治古都館改修に伴い、平成知新館で特別展「琳派　京を彩る」を開催することになったため、新たに名品ギャラリーの展示計画を検討した。
イ　定期的な陳列替を行い、展示室ごとにテーマ性を持った展示を行った。(陳列替件数 1,145件)
ウ　陳列総件数1,438件
エ　年度計画に加え、2階１室～5室において新春特集陳列「さるづくしー干支を愛でるー」(27年12月15日～28年1月24日)、特別展示室にて特集陳列「刀剣を楽しむー名物刀を中心にー」(27年12月15日～28年2月21日)、2階1室～5室で特集陳列「皇室ゆかりの名宝」(28年1月26日～2月21日) を開催した。

【補足事項】
・端境期である12月～3月に来館者を誘致するため、干支を特集した「さるづくしー干支を愛でるー」、27年の刀剣ブームに合わせ名物刀に焦点をあてた「刀剣を楽しむー名物刀を中心にー」、ＪＲ東海と連携し、ＣＭの放映時期に合わせて「皇室ゆかりの名宝」などの特集陳列を企画し、来館状況や来館者のニーズに合わせて柔軟に展示計画を設定した。
・当初目標としていた陳列替件数・陳列総件数は、旧来の展示館の実績と、26年度開館した平成知新館の実績をもとに算出したものであった。平成知新館の展示実績は半年分しかなかったが、新たに特集陳列を企画したことにより、当初の想定数量を大幅に上回ることになった。
※平常展来館者の、27年度目標値算出について
(H27目標来館者数)＝(前中期平均来館者数171,110人)×((開館予定日数) 223日)/((通常の年間開館日数) 310日)＝123,088.806451･･･≒123,089人

新春特集陳列「さるづくし」・特集陳列「刀剣を楽しむ」チラシ表（写真左）・裏（写真右）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	205,526人	123,089人	A※		－	－	－	265,791
陳列替件数	1,145件	700件	A※		－	－	－	693
陳列総件数	1,438件	約1,000件	A※		－	－	－	980
特集陳列等実施回数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	判定根拠：柔軟な展示計画により、陳列替件数・陳列総件数ともに目標値を上回ることになり、年末年始の入館者数は連日1,000人を上回ることとなった。また、音声ガイド業務委託先と協力した新たな試みにより、新たな客層の誘致にも成功した。 対応と課題：干支の展示を恒例のものとして周知し、年末年始の一定の来館者数を維持する。「刀剣を楽しむ」の来館者層を一過性のものではなく、リピーターとして取り込むよう努める。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	判定根拠：中期計画どおり平常展示館の建て替えを終了し、26年度から平常展を開催した。常設展示としての位置づけである名品ギャラリーだが、特集陳列ごとにリーフレットやチラシを作成し、最新の研究成果を盛り込んだ。 「葵祭の美術」や「皇室ゆかりの名宝」、「雛まつりと人形」など、京都文化を紹介する展示に加え、「日本の仮面」、「さるづくしー干支を愛でるー」など、アジア的な視野に立った陳列を行い、また「葵祭の美術」ではケース内を葵の造花で彩り、「日本の仮面」ではキャプションに各仮面の重量を記載するなど新たな試みを行った。また、「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」は、２階展示室の横断的な展示とし、大きく部門を越えたものとなった。 課題と対応：次期中期計画においても、京都文化の本質を紹介する平常展示・特集陳列を積極的に推進する予定である。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2113-1-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展　(1/2)

【年度計画】（4館共通）
平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。
・西新館　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいうべき作品群を展示する。（なら仏像館の改修に伴い、彫刻の名品展展示を西新館に移して実施する）
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
27年度は展示ケース等改修工事のため通年休館
・青銅器館　中国青銅器の名品展
国内における屈指の青銅器コレクションを展示する。
・特集展示
収蔵品等からテーマを選び行う小企画展示を行う。
イ～エ(略)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(4館共通)平常展来館者数は、本年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均（118,032人）を上回らなかった。これは、年間を通じてなら仏像館が施設工事のため休館した影響であり、休館期間を織り込んだ補正目標値には到達することができている。
（奈良国立博物館）
ア　名品展では多数の優れた文化財をバランス良く展示できた。
・西新館　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
名品展「珠玉の仏教美術」を、4月1日～6月28日及び12月8日～28年3月14日に開催した。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
年度計画どおり、本年度は展示ケース等改修工事のため通年休館した。
・青銅器館　中国古代青銅器の名品展
中国商（殷）～漢代の青銅器を展示した。ただし、7月17日及び10月23日～11月9日は臨時休館した。
また通年観覧無料とした。
・特集展示「新たに修理された文化財」(12月22日～28年1月17日）を開催した。

西新館名品展 展示会場

【補足事項】
なら仏像館が休館していたため、仏像の一部を西新館名品展「珠玉の仏教美術」で陳列した。
※平常展来館者数の目標値の補正算定式
(1)補正前の目標値118,032人を展示面積で按分
なら仏像館　：118,032人×1,261㎡÷1,731㎡=85,236人（a）
青銅器館　　：118,032人×　470㎡÷1,731㎡=32,047人（b）
(2)工事による休館日数を考慮
なら仏像館　：85,236人（a）×147日（開館実績）÷ 320日（工事がなかった場合の開館日数）＝39,155人（c）
青銅器館　　：32,047人（b）×304日（開館実績）÷ 320日（工事がなかった場合の開館日数）＝30,445人（d）
(3)補正目標値：39,155人（c）＋ 30,445人（d）＝69,600人（e）となる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	95,208人	69,600人	A		130,839	145,914	122,075	92,147

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】工事による休館等により、開館日数や展示に制約があった中で、入館者数を確保しつつ多数の優れた文化財をバランスよく展示できた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】来場者数の23～27年度における平均は、前回中期計画期間の平均118,032人を上回っており順調である。次期中期計画期間には一層のファン開拓への努力を行う。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展　(2/2)

【年度計画】
(奈良国立博物館)
ア(略)
イ　定期的な陳列替の実施（年180件）
ウ　陳列総件数　約600件
エ　特別陳列により名品展の充実を図る。
　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
　・「名匠三代－木内喜八・半古・省古の木工芸－」(6月2日～28日)
　・「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～28年1月17日)
　・「お水取り」(28年2月6日～3月14日)
　・銅造伊豆山権現像修理記念「伊豆山神社の歴史と美術」(28年2月6日～3月14日)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
イ　定期的な陳列替を実施し、286件を替えた。
ウ　陳列総件数　620件
エ　下記特別陳列を開催し、平常展の充実を図った。
　・「名匠三代―木内喜八・半古・省古の木工芸―」(27年6月2日～28日)　陳列件数27件
　・「おん祭と春日信仰の美術」(27年12月8日～28年1月17日)　陳列件数51件（陳列替14件）
　・「お水取り」(28年2月6日～3月14日)　陳列件数65件
　・「銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術」(28年2月6日～3月14日)　陳列件数26件（陳列替3件）

【補足事項】
ウ 名品展(平常展)における陳列総件数620件の内訳は次のとおり。
　　中国古代青銅器(青銅器館)　237件
　　珠玉の仏教美術(西新館)　376件
　　特集展示「新たに修理された文化財」(西新館)　7件

※26年度まではなら仏像館における特集陳列が回数に含まれていた。27年度は仏像館にてこのような特集陳列がなかったことから回数が減少している。

名品展「中国古代青銅器」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
陳列替件数	286件	180件	A		481	465	130	208
陳列総件数	620件	約600件	B		1,092	814	632	675
特集陳列等実施回数	※1回	－	－		12	6	10	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 陳列総件数は所期の目標を達成した。陳列替を定期的に実施することで、全体として展示内容を充実させることができた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通じて限られた展示面積のなか、定期的な陳列替えにより、日本の歴史・伝統文化への理解を促進させるに足る体系的・通史的な平常展を実施できた。さらなる理解の深化のためには陳列数を増やすことが課題で、それには陳列室の拡充とスタッフの増員が必要である。増員は、研究成果を今以上に充実させるためにも不可欠である。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展

【年度計画】(4館共通)
平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
（九州国立博物館）
ア　定期的な陳列替の実施（年600件）
イ　陳列総件数　約700件
ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに着手する。
エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる。
・「柿右衛門―受け継がれる技と美―」(27年3月3日～5月10日)
・「新羅王子がみた大宰府」(9月22日～11月29日)
・「社寺縁起―八幡縁起を中心に―」(28年2月2日～3月13日)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
1)平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均を達成した。
ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,513件の陳列替を行った。
イ　陳列総件数は2,628件。文化交流展室のリニューアルを行ったことで、展示品とテーマの関連性がわかり易くなった。
ウ　27年度は開館10周年の節目にあたって文化交流展のリニューアルを実施し、文化交流という当館のコンセプトに根ざした、より分かり易い展示室をケース配列・展示テーマの両面から見直した。
エ　独創的な着想に基づいたトピック展示（特集陳列）・特別展示を8回実施し、地元に密着したテーマを行うことができた。

【補足事項】
・文化交流展示室リニューアル
文化交流展示室ではエントランス部分に展示室を構成する5つのテーマをグラフィカルに掲出し、中央部には展示室模型を設置したガイダンスエリアを新設、また、そのエリアから各テーマへのいざないとしてグラフィックサインを設けた。各テーマのエリアが分かるように、サインを設けた。この他に、当館で製作した絵本を紹介するコーナーを新設した。

文化交流展リニューアル後の「きゅーはく絵本」紹介コーナー

・トピック展示「柿右衛門―受け継がれる技と美―」
28年に400周年を迎える肥前磁器生産をテーマに、柿右衛門様式の変遷に焦点を当てたトピック展示である。柿右衛門の歴史的変遷をたどると同時に、江戸時代と現代の柿右衛門のテーブルコーディネートの対比が話題となり、カタログの内容についても高い評価を得た。

「柿右衛門」展示風景

・トピック展示「新羅王子がみた大宰府」
26年、大宰府史跡に「推定客館跡」が追加指定されたことをきっかけに、太宰府市教育委員会との連携事業として開催したトピック展示。
・トピック展示「祈りのかたち 八幡」
九州で発祥した八幡信仰をテーマに全国的な視野で捉え、美術・工芸・歴史資料・考古など幅広くかつ歴史的に位置づけたトピック展示。なお、当初年度計画では、「社寺縁起―八幡縁起を中心に―」であったが、トピック展示名称を変更した。

「新羅王子がみた大宰府」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	412,621人	380,690人	B		358,366	460,525	349,848	357,362
陳列替件数	1,513件	600件	A		1,373	1,195	1,157	1,027
陳列総件数	2,628件	約700件	S		2,417	2,416	2,750	1,904
特集陳列等実施回数	8回	－	－		13	12	14	11

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	平常展来館者数は目標値を達成し、陳列替件数及び陳列総件数は目標値を大幅に超えることができた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	リニューアルを経て、文化交流というコンセプトがわかりやすくなり、中期計画のとおり当館の特色を生かした展示を行うことができた。

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2110-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－2　展示説明の充実

【年度計画】(4館共通)
1)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 企画室長 情報サービス室長 課長兼文化交流展室長	救仁郷　秀明 浅見龍介 岩井共二 河野一隆

【実績・成果】
1)（東京国立博物館）東京国立博物館の展示説明において作品キャプション全英語訳を付した。
（京都国立博物館）作品キャプションについては全てに英語訳を付した。
（奈良国立博物館）名品展の作品題箋には全て作品名及び解説の全てに英訳を付した。
（九州国立博物館）
・文化交流展示（平常展）を構成する5つのテーマの紹介文の見直しを図りよりわかりやすく、かつ展示内容により即した内容とし、これを日・英・中・韓の4言語併記で掲示した。
・個別テーマの展示について、概要説明及び、挨拶パネルを原則日英併記で掲示した。また個別作品の解説についても従来通り日英併記を原則とした。
2)（東京国立博物館）展示テーマ数　140件(100%)について外国語パネルを設置した。また、74 件(56%) については中国語、韓国語での解説も付している。
（京都国立博物館）展示テーマ数 74 件のうち、 74 件（100%）について外国語パネルを設置した。
（奈良国立博物館）展示テーマごとに、時代背景等を説明した外国語を名品展・特別陳列・地下廻廊展示のパネルに全て併記した。
（奈良国立博物館）展示テーマ数71件のうち、71件（100%）について外国語パネルを設置した。
（九州国立博物館）外国語パネルを92%設置した。

「白鳳展」テーマ解説パネル（英訳付）（奈良博）

特集陳列「皇室ゆかりの名宝」解説パネル（日英）（京博）

【補足事項】
（京都国立博物館）4言語による音声ガイドを提供。
（九州国立博物館）
・文化交流展示室では、各テーマのカラーを決めてビジュアル的に分かるようにし、かつ日・英・中・韓の4言語で歴史の流れを解説した。さらに、時代表記については、原則として西暦が目立つようにデザインし、日本の歴史に詳しくない人が見ても、いつ頃のことかイメージできるようにした。
・展示趣旨についても、日英2言語で表記した。このように、題箋・グラフィックパネルの大幅な見直しによって、より幅広い客層への展示を行うことができた。

日英で標記した題箋（九博）

リニューアルした5テーマ章解説（九博）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
外国語パネル等の設置								
東京国立博物館	100%	80%以上	A		97%	100%	100%	100%
京都国立博物館	100%	80%以上	A		－	－	－	100%
奈良国立博物館	100%	80%以上	A		89%	100%	91%	100%
九州国立博物館	92%	80%以上	B		94%	87%	85%	92%

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】4館とも目標値を上回る成果を達成した。九州国立博物館においては多言語標記に加え、視覚的な分かりやすさを向上させることにも取り組んだ。

【中期計画記載事項】展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】中期計画の期間において、いずれの館も外国語パネルの設置率を向上させ、目標値を上回る成果を達成した。さらに、英語以外の言語の解説の整備や、視覚的な工夫にも取り組むことができた。

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展

【年度計画】特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)　年3～4回程度　(京都国立博物館)　年2～3回程度
(奈良国立博物館)　年2～3回程度　(九州国立博物館)　年2～3回程度

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長 学芸部長 部長 課長兼文化交流展室長	井上洋一 伊藤嘉章 内藤　栄 河野一隆

【実績・成果】
(東京国立博物館) 特別展を6回開催した。内訳：当館開催5回、海外展1回
(京都国立博物館) 特別展覧会2回、特別展観1回を開催した。
(奈良国立博物館) 特別展を4回開催した。内訳：当館開催3回、海外展1回
(九州国立博物館) 特別展を4回開催した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
・特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」は平成知新館で開催する最初の展覧会であり、今後の京都国立博物館の特別展の開催を考える上で重要な展覧会となった。京都をあげての琳派400年の盛り上がりの中で、昭和48年の「中華人民共和国出土文物展」につぐ327,925人という多数の観覧者を迎えることができた。展示替による作品の変化で行列の出来方にも大きな変化があり、今後の検討材料となった。
(九州国立博物館)
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」
本展は開館10周年の式典に合わせ、当館の原点回帰を目的として開催し、開館後第1回目の展覧会と同じ名称を付けた特別展である。1回目と同じく正倉院宝物のうち、「螺鈿紫檀五弦琵琶」が大きな反響を呼んだほか、国宝・重要文化財が集結した10周年に相応しい展覧会となった。

(京都国立博物館)琳派展会場
風神雷神図屏風の競演

「美の国　日本」「琉球の美
アイヌの美」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
特別展等の開催回数								
東京国立博物館	6回	年3～4回程度	A		7	9	8	8
京都国立博物館	3回	年2～3回程度	B		6	5	3	2
奈良国立博物館	4回	年2～3回程度	A		3	3	3	3
九州国立博物館	4回	年2～3回程度	A		5	4	5	5

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4館で目標値を3割以上上回る回数の特別展を開催している。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)年3～4回程度　(京都国立博物館)年2～3回程度　(奈良国立博物館)年2～3回程度
(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の目標を大きく上回り、順調に推移している。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(1/5)

【年度計画】
ア　特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」（平成27年3月17日～平成27年5月17日）
　インド、コルカタのインド博物館の所蔵する仏教美術の名品を通して、その歴史を辿る。（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	元学芸企画課長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」
・会　　期　27年3月17日（火）～27年5月17日（日）（56日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、インド政府文化省、コルカタ・インド博物館、インド大使館、日本経済新聞社、BSジャパン
・協　　賛　野崎印刷紙業、三井物産
・協　　力　エア インディア
・作品件数　91件
・来館者数　97,300人（目標60,000人・達成率162.1%）
・入場料金　一般1400円（1200円／1100円）、大学生1000円（800円／700円）、高校生800円（600円／500円）
中学生以下無料、＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　80%

インドのコルカタ（旧カルカッタ）に所在し、1814年に創立したアジア最古の総合博物館であるインド博物館が所蔵する、古代初期を代表するバールフット遺跡の出土品、仏像誕生の地であるガンダーラやマトゥラーの美術などを展示し、インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった。

【補足事項】

ポスター

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	97,300人	60,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 インド、コルカタのインド博物館の所蔵する仏教美術の名品を広く紹介し、インドの仏像の魅力を示すことができた。目標を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(2/5)		

【年度計画】
イ　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」（平成27年4月28日～平成27年6月7日）
　京都・高山寺の歴史をたどり、合わせて日本絵画史上屈指の名品である鳥獣戯画の全巻を紹介する。目標来館者数18万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　土屋貴裕

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」
・会　　期　27年4月28日（火）　～ 27年6月7日（日）（36日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、高山寺、朝日新聞社
・特別協賛　髙島屋
・協　　賛　カネカ、三井物産、凸版印刷
・協　　力　集英社、ビックカメラ、三井住友銀行、あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　123件
・来館者数　239,115人（目標180,000人・達成率132.8%）
・入場料金　一般1600円（1400円／1300円）、大学生1200円（1000円／900円）、高校生900円（700円／600円）
　中学生以下無料、＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%

日本で最も有名な絵巻の一つである国宝・鳥獣戯画は、墨線のみで動物や人物たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品で、近年修理を終えた。本展覧会では、鳥獣戯画全4巻と、いま存在が確認できる断簡5幅も展示した。また、鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺に伝わる、鎌倉時代の高僧明恵ゆかりの文化財も合わせて公開した。

【補足事項】

ポスター

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	239,115人	180,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 日本絵画史上屈指の名品である鳥獣戯画の全巻を紹介し、鎌倉時代絵画の魅力を伝えることができた。目標値を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 修理を終えたばかりの作品など、関心の高い作品を展示し、調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(3/5)

【年度計画】
ウ　「クレオパトラとエジプトの王妃展」(平成27年7月11日～平成27年9月23日)
　世界およそ12カ国、40を超える所蔵先からエジプト美術の名品200件を集め、エジプト王妃、クレオパトラなど女性に焦点を当て、その実像に迫る。(目標来館者数18万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　品川欣也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」
・会　　期　27年7月11日（土）　～ 27年9月23日（水）(66日間)
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　外務省
・協　　賛　大日本印刷、トヨタ自動車
・協　　力　日本航空、KLMオランダ航空
・作品件数　181件
・来館者数　267,959人(目標180,000人・達成率148.9%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
絶世の美女として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たちの魅力を、世界各地の名だたる美術館や博物館から古代エジプトの選りすぐりの名品を集めて紹介した。

【補足事項】

ポスター

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	267,959人	180,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 エジプト王妃、クレオパトラなどの女性の実像に迫ることができ目標を上回る来館者があった。また、子供のための観覧日、キッズデイを開催し、多くの親子連れに楽しんでもらうことができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(4/5)		

【年度計画】
エ　「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」(平成27年9月8日～平成27年11月29日)
　世界的な宝飾ブランドであるイタリアのブルガリに関連するジュエリーを展観する。(目標来館者数3.5万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　品川欣也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」
・会　　期　27年9月8日（火）　～ 27年11月29日（水）(72日間)
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、ブルガリ、読売新聞社
・後　　援　イタリア大統領府、イタリア首相府、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、ローマ市
・作品件数　265件
・来館者数　142,000人(目標35,000人・達成率405.7%)
・入場料金　一般1400円(1200円／1100円)、大学生・高校生800円(600円／500円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　85%

130年を越える歴史を持つ、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリの回顧展で、ローマの地に1884年に創業したブルガリの、創成期から今日に至るまでの貴重な作品の数々を展示した。

【補足事項】

ポスター

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	142,000人	35,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ジュエリーの歴史を紹介し、目標を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	映像や音楽を用いた展示手法も取り入れ、新たな来館者層の開拓にも繋がり、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(5/5)

【年度計画】
オ　特別展「始皇帝と大兵馬俑」(平成27年10月27日～平成28年2月21日)
　中国を統一した秦の始皇帝は、万里の長城の建設や兵馬俑を制作させたことで名高い。兵馬俑をはじめとする文物によってその歴史とスケールに迫る。(目標来館者数23万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	平常展調整室主任研究員　川村佳男

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「始皇帝と大兵馬俑」
・会　　期　27年10月27日（火）～28年2月21日（日）(94日間)
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　中国大使館
・協　　賛　野崎印刷紙業
・協　　力　全日本空輸
・作品件数　91件
・来館者数　483,809人(目標230,000人・達成率210.4%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　78%

始皇帝の陵墓のほど近くに埋められた兵馬俑は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けている。本展では、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物を一堂に紹介し、始皇帝が空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った。

【補足事項】

ポスター

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	483,809人	230,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 １０体の兵馬俑と８０体の模造を展示したことによって兵馬俑の歴史的意義とスケールに迫り、目標を大きく超える来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(1/3)

【年度計画】ア　特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」(4月7日～5月17日)
19年に開催した展覧会「狩野永徳」に続き、桃山後期に焦点をあて、永徳以後の狩野派絵師たちの作品を一堂に紹介する。(目標来館者数8万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員兼美術室長　山本英男

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「桃山時代の狩野派―永徳の後継者たち」
・会　　期　27年4月7日（火）～5月17日（日）(37日間)
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（本館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿
・後　　援　（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
・協　　賛　野崎印刷紙業、大和ハウス工業、大林組
・協　　力　日本香堂
・作品件数　70件（うち、国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件）
・来館者数　118,186人（目標8万人・達成率147.8%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度94%
・永徳没後、いったんはその体制が揺らいだかにみえた狩野派が、豊臣・徳川・皇室へと絵師を送り込みながら、再び画壇の覇者としての地位を獲得していく過程を、彼らが描いた金碧の障壁画や屏風、豊臣秀吉像をはじめとする肖像画などを展示することで示した。これにより、華麗さを旨とする豊臣政権下の画風から、次第に徳川好みの瀟洒な画風へと変化する状況をもよく提示できた。とくにこの時期の狩野派の作品がまとまって展示されたことはなかっただけに、狩野派芸術の質の高さを知らしめる絶好の機会になった展覧会として評価される。

【補足事項】
本展の調査段階において、狩野山楽の手になる「槇に白鷺図屏風」などの注目すべき作品の新発見があった。また、これまで画集等でしか紹介のなかった狩野孝信筆の「北野社頭遊楽図屏風」なども本展で初めて公開することができた。

槇に白鷺図屏風　狩野山楽筆

北野社頭遊楽図屏風　狩野孝信筆

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	118,186人	80,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】共催の新聞社・放送局などの広報も多数行われて、目標来館者数を大きく上回った。また豊臣から徳川へと移行する激動の時代を、きわめて上質な作品によって具体的に提示することができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(京都国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】94%という非常に高い観覧者満足度が物語るように、これまでまとまった形で紹介されてこなかった桃山後期狩野派の作品の素晴らしさを示す絶好の機会となった。また本展で初めて公開された作品のうち、何点かは当館の寄託となったので、今後、平常陳列などで活用することができるようになった。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸　―仏教の典籍と美術―」(7月29日～9月6日)
大正４年（1915）にはじまり、仏教に関する典籍を中心とした伝統ある展観事業、「大蔵会（だいぞうえ)」の100回目を記念して開催。仏教経典の総集である「大蔵経（一切経)」の歴史を現存する遺品から紐解くとともに、関連する書跡、絵画や工芸品も併せて紹介する。(目標来館者数3.1万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室主任研究員　羽田聡

【実績・成果】
・展覧会名　特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸　―仏教の典籍と美術―」
・会期　平成27年７月29日（水）～9月6日（日）(35日間)
・会場　京都国立博物館　平成知新館
・主催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
・作品件数　95件（うち、国宝12件、重要文化財36件、重要美術品4件)
・来館者数　34,696人（目標31,000人、達成率111.9%)
・入場料金　一般520円、大学生260円、高校生以下無料
・アンケート結果　満足度83%
　我が国屈指の古写経コレクションとして有名な京都国立博物館の所蔵する「守屋コレクション」を中心に、日本国内に現存する大蔵経（一切経）をほぼ網羅して展示するとともに、京都仏教各宗学校連合会に加盟する16校と関わりのある寺院（天台宗・真言宗・臨済宗・浄土宗・浄土真宗）から協力を得て、絵画や工芸など多彩な作品も展示することで、日本仏教の歴史を通史的、かつ立体的に理解を深めることが可能となった。

【補足事項】
・会期中の8月29日（土）には、平成知新館の講堂において、聴講無料で一般を対象とする記念シンポジウムを開催した。「仏法東漸　―釈尊の教えとそのひろがり―」をテーマとし、典籍及び絵画を専門とする２名（外部講師１名をふくむ）の研究者による基調講演につづき、座談会を行い、展覧会についての理解が深まるよう努めた。
・また、8月30日（日）には、おなじく講堂において、事前申し込み制で研究者を対象とする仏教美術研究上野記念財団のシンポジウムを開催した。「禅宗における人と美術を中心とした東アジアと日本との交流」をテーマとし、典籍・絵画・染織を専門とする3名（外部講師2名をふくむ）の研究者による発表につづき、座談会を行い、今後の調査や研究に資する活発な議論を重ねた。

展覧会チラシ

展覧会図録

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	34,696人	31,000人	B		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	目標値とした来館者数を達成し、展覧会図録は当初納品された800部を完売するなど、一定の成果を上げることができたため。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	目標値の達成とあわせ、関係寺院の協力により、日本の歴史あるいは文化の理解に資するような、仏教美術を中心とした質の高い展示が可能となったため。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　琳派誕生400年記念 特別展覧会「琳派　京（みやこ）を彩る」(10月10日～11月23日)
光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年となることを記念して開催。琳派の系譜を100件あまりの絵画、工芸作品で紹介する。(目標来館者数12万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　曉

【実績・成果】
・名　称　　特別展覧会「琳派　京を彩る」
・会　期　　10月10日（土）～11月23日(月・祝)（39日間）
・会　場　　京都国立博物館　平成知新館
・主催　　京都国立博物館・日本経済新聞社・テレビ大阪・ＢＳジャパン・京都新聞
・協賛　　京都銀行・京都美術工芸大学・JR東海・日本写真印刷・パナソニック・ワコール
・協力　　岩谷産業・オムロン・日本香堂
・来館者数　327,925人(目標120,000人・達成率273.2%)
・作品数　　175件(国宝5件・重要文化財36件)
・入場料金　一般　1,500円、大学生　1,200円、高校生　900円
・来館者アンケート　満足度　84%
・時系列に沿った琳派の展開と代表的な芸術家の紹介及び、絵画のみにとどまらない諸工芸へと広がる琳派のデザイン的特質を取り上げ、京都で誕生した琳派について紹介する、関西地方初の大規模な展覧会であった。
・27年は本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯に土地を拝領して400年にあたることを記念する「琳派400年祭」が京都全域を挙げて開催されており、本展はその中核として機能する時機を得た展覧会であった。

【補足事項】
・京都府・京都市・京都博物館連絡協議会・社寺・学校教育機関とも連携協力して広報活動を行い、各方面に展覧会への関心を喚起することができた。その成果は予想を遥かに上回る 32 万人を超える来館者数からもうかがえる。
・特別展を開催する明治古都館が耐震調査のため長期閉館に入っていたため、平成知新館で開催する初めての特別展覧会であった。入場整理など運営について詳細な事前予測及び打ち合わせを行ったが、想定外の入場者数となり、会期中に試行錯誤を繰り返しながら、混雑整理対策を行った。大きな混乱はなかったが、来館者が満足しうる観覧環境を確保できたとはいいがたく、大きな反省材料となった。
・記念講演会、土曜講座、フォーラム、各種のレクチャーを、担当研究員を中心に館内及び館外で 44 回行い、琳派芸術への理解促進を深める機会を設けるようつとめた。
・会期中毎日、琳派デザインの特質を体験的に理解できるワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を、京博ナビゲーター（当館教育普及ボランティア）による教育事業として行い、1 万 5 千人を超える来館者が参加した。
・「風神雷神図屏風」三双が揃うことが大きな関心を呼び、話題性の高い展覧会となったため、各種広報媒体に広く取り上げられた。テレビ・ラジオ取材・放送は 24 件、新聞・雑誌など紙媒体掲載は 444 件にのぼる。

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	327,925人	120,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	計画の通り展覧会を開催し、琳派の系譜及び絵画のみにとどまらないデザイン的特質を、175件の展示作品によって明らかにした。京都全域で開催された「琳派400年祭」の中核となる展覧会でもあったため、各種広報媒体に取り上げられ、近年にない30万人を超える来館者数となった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(京都国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	これまでの研究の蓄積を、時機を得て展覧会として公開したことにより、予想を遥かに上回る人々の来館につながった。予想を遥かに上回る来館者数のため、快適な観覧環境を提供することができず、運営面での課題も明らかとなったが、来館者満足度は高く、大きな混乱なく閉幕を迎えることができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(1/3)

【年度計画】ア　特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」(4月7日～5月17日)
保存状態の問題から長く一般の目に触れることのなかった法華経（久能寺経）4巻の修理が完了したことを受け、これを公開するとともに、同時代およびこれに先行する時代の写経・経典遺品を展示し、平安時代経典史を概観する。(目標来館者数2.5万人)

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
修理の完了した法華経（久能寺経）4巻を展示するとともに、同時代およびこれに先行する時代の写経・経典遺品をあわせて展示し、平安時代経典史を概観するという、年度計画どおりの事業を実施できた。
・展覧会名　まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展
・会　　期　27年4月7日(火)～5月17日(日)（36日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館第一室
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　日本香堂、仏教美術協会
・出陳件数　67件（うち国宝13件、重要文化財16件）
・来館者数　10,561人(目標25,000人・達成率42.2%)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度84%

【補足事項】
・紙の表裏に装飾のある経巻のために特殊な展示台を作成し、観覧者へのサービス向上を図った。
・賛助会員向け特別鑑賞会を実施（27年4月7日）
・タクシー・ホテル業者向け鑑賞会を実施（27年4月8日・9日）
・公開講座を3回実施（27年4月18日・25日、5月9日）
・図録を刊行

（写真１）特殊仕様の展示ケースと展示台

（写真２）ケース上面のガラスから覗く（経巻のオモテ面が見える）

（写真３）２と同じ部分を側面のガラスから覗く（経巻のウラ面が見える）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	10,561人	25,000人	D		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　C	修理の完了した重要文化財を、所蔵者の承諾を得て、保存環境・観覧環境に配慮しながら展示に漕ぎ着けたことは評価できる。一方、来館者数が目標値を大きく下回ったことが課題で、原因の一つは観覧料金を高く設定したことにある。広報のあり方とともに観覧料金の設定時には、現状よりも多様な観点からの検討が必要である。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　C	本展は、仏教美術を専門とし、これまでにも奈良朝写経展など経典にかかわる展覧会の実績がある当館でなければ実施できないものであった。修理前はほとんど表に出ることのなかった個人蔵の久能寺経の出陳が叶ったのも、当館の積年の研究成果が評価された結果である。設定した来館者数目標が達成できなかったため、今後は広報のあり方や観覧料金設定方法を再検討する必要がある。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」(7月18日～9月23日)
開館120年を記念し、仏教美術の専門館として長年にわたり構想を温めてきた白鳳美術を取り上げ、その魅力を追求する。(目標来館者数5万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
・展覧会名　開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」
・会　　期　27年7月18日（火）～9月23日（水・祝）(60日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良テレビ放送
・協　　賛　関西大学、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、天理時報社、非破壊検査
・協　　力　日本香堂、仏教美術教会
・作品件数　148件（うち国宝16件、重要文化財72件）
・来館者数　128,901人(目標50,000人・達成率257.8%)
・観覧料金　一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度85%
・従来曖昧であった「白鳳文化」、「白鳳時代」に関する定義づけを提唱し、白鳳の再検討に一石を投じた。
・白鳳時代を代表する作品をほぼ網羅することができ、白鳳文化に関する展覧会の決定版となった。
・薬師寺月光菩薩像のような大型金銅仏を輸送する際、３Ｄ計測を行い安全な輸送方法を考案した。
・通常鑑賞できない仏像の背面や、厨子の内部、塔の上部を飾る部品などを展示することができた。
・ＳＮＳで白鳳展の情報が拡散し、一つの展覧会でありながらリピーターが現れるなどの人気を博した。
・従来、造立年代で議論のある薬師寺金堂薬師三尊像について、担当者が展覧会前に論文を発表するなど、研究を根底に据えた展覧会となり、学術的にも寄与した点が大きい。

会場風景（月光菩薩立像、奈良・薬師寺所蔵）

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	128,901人	50,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　S	【判定根拠、課題と対応】 入館者数が目標を大きく上回り、アンケートによる満足度もきわめて高く、さらに学術的にも寄与した点が大きく、当館120年の開館を記念する行事にふさわしかった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にある、国内外の博物館との連携に基づく質の高い展示となった。また、当館の人的資源を最大限に活用することで、開館120年記念の特別展にふさわしい規模での展覧会を開催することができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(3/3)

【年度計画】ウ　特別展「第６７回正倉院展」
正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数18万人)

担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長　清水　健

【実績・成果】
・展覧会名　「第67回　正倉院展」
・会　　期　27年10月24日（土）～11月9日（月）(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、NTT西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
・作品件数　63件
・来館者数　221,189人（目標180,000人・達成率122.9%）
・入 場 料　一般1，100円　高校・大学700円　小・中学生400円
・アンケート結果　満足度69%

天平文化の精華を今に伝える63件の宝物が出陳され、17日間で22万人を超える観覧者(1日平均約１万３千人)が来館した。聖武天皇ご遺愛の袈裟や楽器、紫檀木画槽琵琶や伎楽面といった東西の文化交流を物語る宝物、暮らしに身近な年中行事に関わる宝物などが陳列され、1250年以上前の生活や文化に迫りたいという国民の知的欲求が充足された。殊に近年の調査成果を披瀝するかたちで、動物の毛を用いた宝物が多数出陳された点は、今日の研究水準を知らしめるのに充分であった。

他方多くの来場者が訪れたにもかかわらず、大きな混乱等もなく、展示環境の改善を喜ぶ声も多く聞かれた。また展覧会図録、公開講座やシンポジウム等を通じて、広く学術的な情報が発信できた。

【補足事項】

展示風景

展覧会チラシ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	221,189人(17日間)	180,000人	A		239,581(17日間)	238,019(17日間)	246，269(17日間)	269,348(20日間)

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	判定根拠:演示具等を工夫した鑑賞に適した展示が行われ、多数の写真パネルを活用するなど、観覧者に宝物の魅力を伝える展示ができた。また日本語と英語の解説が全ての宝物に付され、英語の図録や音声ガイドが作成されるなど国内外への情報発信に努めた。 課題と対応:会場の混雑具合に波があるので、動線を再度検証し、混雑情報の発信を強化して、一層の観覧環境の向上に努めたい。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	判定根拠:　奈良の秋の風物詩ともいえる展覧会となりつつあり、全国から本展を観覧するために人々が訪れている。歴史や美術の愛好家は本展の開催を毎年心待ちにしており、出陳宝物が大きな話題となっており、中期計画期間中順調に開催した。 課題と対応:観覧者の地域的偏りや、年齢層の偏りが少なからずあり、学校教育との連携も不十分である。魅力ある情報の広範囲な発信に努めるとともに、教育関係者にアピールする機会を増やし、一層の連携を深めたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　② 特別展　(1/4)

【年度計画】
ア　開館10周年記念特別展「戦国大名　－九州の群雄とアジアの波涛－」(4月21日～5月31日)
　海外交流の窓口・九州を舞台とした戦国大名の興亡を紹介する。(目標来館者数5万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展「戦国大名　－九州の群雄とアジアの波涛－」
・会　　期　27年4月21日～5月31日 (37日間)
・会　　場　九州国立博物館特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　122件(国宝6件、重要文化財36件、重要美術品2件)　・来館者数　77,455人 (目標50,000人・達成率154%)
・入場料金　一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円　・アンケート結果　満足度88%
・織田信長ら数多くの大名たちが天下を争った戦国時代、中央をにらみながら九州を拠点に活動した大名に焦点を当てた。肖像画や武具・甲冑、遺愛の道具類のほか、当館の特色としては欠かせない対外交流を物語る品なども加え、さまざまなジャンルの作品を含む充実した展示内容で、幅広い世代から好評を得た。

【補足事項】
・九州の大名を中心とした展覧会としては、質量ともにかつてない規模のものとなり、従来の歴史好きの男性のほか、近年の刀剣ブームにより女性ファンも目立ったことは特筆される。
・教育普及の観点から、中世の書状の紙質を触ったり、書状の作法を学んで体験できるコーナー「戦国大名の手紙」を設置した。展示品をより身近に感じてもらえることができた。そのほか、子供向けのイベントとして、子供の日（5月5日）に合わせて参加無料のワークショップ「手作り兜を作ろう！」を実施した。原品は出陳作品の「金箔押桃形兜」(福岡・立花家史料館蔵)。一時は待ち列ができるほど盛況となり、小・中学生を中心とした409人が参加。
・展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。
○会期中、以下の講演会・イベントを開催して、展覧会の普及に努めた。
・27年4月25日（土）特別講演会「戦国・織豊期の九州とアジア」
　講師：中野等（九州大学教授)、伊藤幸司（九州大学准教授)
・27年5月2日（土）記念シンポジウム「戦国武将のデザイン」
　講師：植野かおり（立花家資料館長)、長田弘通（大分市美術館参事)、宮野弘樹（福岡市博物館学芸員)、富田紘次（鍋島報效会学芸員)、久家孝史（松浦資料博物館学芸員)
・27年5月9日（土)、16日（土)、23日（土）
　リレー講座「よく分かる！戦国大名展」
　講師：荒木和憲、川畑憲子、一瀬智、岸本圭、望月規史（以上すべて当館研究員）

展示室の様子

先行ポスター

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	77,455人	50,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	斬新なポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、目標を上回る来場者数を得ることができ、更にそれぞれに高い満足度を得た。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	初期目標の50,000人に対して、154%の77,455人の来館者があった。充実した展示内容、分かりやすい展示が功を奏し、おおむね好評を得た。特別展に合わせて、文化交流展示（平常展示）で刀剣の特集展示「中世刀剣の美」を行ったため、文化交流展も併せて観覧する来場者が増えた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(2/4)

【年度計画】
イ　開館10周年記念特別展「大英博物館展　－100のモノが語る世界の歴史－　A History of the World in 100 Objects」(7月14日～9月6日)
大英博物館が誇る膨大な所蔵品の中から100点を選び、世界の歴史を旅する。(目標来館者数7万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展
「大英博物館展　－100のモノが語る世界の歴史－　A History of the World in 100　Objects」
・会　　期　27年7月14日（火）～9月6日（日）(47日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、大英博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州
・作品件数　101件　・来館者数　133,174人（目標　70,000人・達成率190%）
・入場料金　一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円　・アンケート結果　満足度 81%
・大英博物館の名品から選び出した100の作品を通じて、200万年前から現代に至る人類の歴史を読み解こうという試み。時代も地域も幅広い領域をたった100の作品で紹介するため、散漫になりがちなところを、解説や展示方法、照明の工夫により、来館者を飽きさせることなく満足いただける展示となった。

【補足事項】
・展覧会の締めくくりとなる101点目の作品は開催館ごとに選ぶことができ、当館は「折り鶴」を展示した。来館者が祈りを込めて折った折り鶴を巨大なオブジェに入れていただく参加型のもので、大変好評であった。
・会期が夏休み期間であったことから、一般の方を対象としたものに加え、小中学生を対象としたナイトミュージアムを開催した。その時代その地域の衣装に扮した館員が展示室各所で作品解説を行い、非常に人気を博した。
・教育普及の観点から、粘土に楔形文字を刻んだり、アストロラーベのレプリカに触れることができる体験コーナーを設置。実際に触ることのできない展示品のしくみを、原品のすぐ横でわかりやすく伝えることができた。
・ロンドンバスを館外に展示したり、ホテルで「アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展」と題した講演会付きアフタヌーンティーを開催するなど、展示室以外でも積極的に展覧会の魅力を伝えた。

告知ポスター

○会期中、以下の講座を開催して、展覧会の普及に努めた。
・特別講演会：27年7月14日（火）「大英博物館展の楽しみ方」
講師：ベリンダ・クレラー（大英博物館本展覧会担当キュレーター）
27年7月19日(日)「ウルってなぁに?～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～」
講師：河野一隆（当館企画課長兼文化交流展室長）
27年8月2日（日）「影絵人形ワヤンのみかた」
講師：池内一誠（福岡県立太宰府高等学校指導教諭、元当館主任研究員）

展示室でのナイトミュージアム

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	133,174人	70,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	世界最大の博物館の一つであることや、人気映画や教科書でおなじみの作品が出陳されるという注目度の高さからか、新聞、テレビほか交通広告等、多彩な広報を展開し、目標の2倍に迫る多くの来場者を迎えることができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	大英博物館の８つの所蔵部門から選りすぐりの作品を九州で紹介することができ、陳列品の品質としても来館者数の数値としても目標を大きく超える成果を上げることができた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(3/4)

【年度計画】
ウ　開館10周年記念特別展「美の国　日本」(10月18日～11月29日)
縄文時代から鎌倉時代までの日本美術の名品を集め、「日本の美」が形成されていった歩みを紹介する。(目標来館者数15万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課長　楠井隆志

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展「美の国　日本」
・会　　期　27年10月18日～11月29日（40日間）
・会　　場　九州国立博物館特別展室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　95件（うち、国宝33件、重要文化財29件）　・来館者数　160,753人（目標150,000人・達成率 107%）
・入場料金　一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円　・アンケート結果　満足度 89%
縄文時代から鎌倉時代までの日本美術の名品を中心に集めた、質の高い展示内容であった。とくに螺鈿紫檀五弦琵琶を含む正倉院宝物の特別公開は話題を呼び、期間限定ながら多くの来館者を得た。質の高さばかりでなく、教科書などで誰しも見たことのある作品を揃えることで親しみやすい展示となり、高い満足度を得た。

【補足事項】
・開館10周年記念の特別展として、古代から中世に至る様々なジャンルの古美術の名品を集め、中国、韓国からも国宝級の文化財を借用した。加えて、琉球・アイヌの作品も一章を設けて紹介した。
・教育普及の観点から、「技あり日本！」と題して、銅鐸・銅鏡を３Ｄプリントしたものを実際に触ったり、葦手や蒔絵の技法を説明するパネルなどを掲出して、日本の技術や技法を分かりやすく紹介するコーナーを設置した。
・展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。
○会期中、以下の講座を開催して、展覧会の普及に努めた。
・記念講演会：27年10月24日（土）「正倉院　あぜくら通信　九州版」
講師：杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）
・講演会：27年10月31日（土）「美の国　日本―書の魅力―」講師：島谷弘幸（当館館長）
・リレー講座：27年11月1日（日）「美の国　日本」講師：楠井隆志（当館展示課長）
「美の国の工芸」講師：川畑憲子（当館主任研究員）
27年11月15日（日）「美しき仏画の世界」講師：森實久美子（当館研究員）
「南海の宝石　琉球王国」講師：原田あゆみ（当館特別展室長）
・プレイベント：27年9月 4日（金）「開講！博多華丸・大吉と学ぶ『美の国塾』」
講師：博多華丸・大吉、楠井隆志（当館展示課長）

告知ポスター

展示室での観覧の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	160,753人	150,000人	B		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	出陳作品のうちに占める国指定文化財の割合が7割近くにのぼり、さらに正倉院宝物6件を含むなど、当館でもかつてない規模で質の高い展覧会を開催できたことは大変有意義である。教科書で見たことのある作品を随所に散りばめ、来館者を飽きさせない展示を工夫し、お客様満足度も非常に高かった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)　年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	所期目標150,000人に対して、107%の160,753人の来館者があり、さらに開館10周年を機に4階文化交流展示室をリニューアルしたことが相乗効果となり、3階・4階ともに来館者数をのばすことができた。九州では公開の機会の限られる正倉院宝物の特別公開など、開館10周年記念にふさわしい大変充実した内容となった。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(4/4)

【年度計画】
エ　開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」(28年1月～2月)
シルクロードの要衝・古代アフガニスタンで栄えた文化を、金、象牙、ガラス、青銅など様々な材質と東西の文化から影響を受けて制作された名品を通して紹介する。(目標来館者数4万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」
・会　　期　28年1月1日～2月14日（42日間）　　・会　　場　九州国立博物館特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、TNCテレビ西日本、西日本新聞社
・作品件数　248件
・来館者数　　67,641人（目標40,000人・達成率169%）　・入場料金　一般1,400円、高大生900円、小中生500円
・アンケート結果　満足度94%
・本展覧会を通し、「文明の十字路」とよばれたアフガニスタンの古代文化を学び広く紹介することで、アジア諸国との文化交流を目的とする当館の活動をより深めることができた。あわせて文化財保護について多くの国民に関心をもってもらうことができた。

【補足事項】
・アフガニスタンは古くから「文明の十字路」といわれるように、さまざまな地域から人々が集まり、多彩な文化が華開いた地域である。本展覧会では、前2100年頃から後2世紀頃までに古代のアフガニスタンで栄えた文化を、4つの遺跡から出土した名宝によって紹介した。
・教育普及の観点から、古代の青銅精品の復元模造を作成し、展示室にオリジナル作品と併置して、体験コーナーを設けた。
・会期中に、多彩なイベント、テレビ出演、動画公開などを積極的に行った。
○会期中、以下の講座を開催し、展覧会の普及に努めた。
記念講演会：28年1月9日（土）「アフガニスタンに生命（いのち）の水を」講師：中村哲（医師・ペシャワール会現地代表）、1月16日（土）「心魅するティリヤ・テペ文化」講師：前田耕作（アフガニスタン文化研究所長）
リレー講座：「知られざる古代都市の秘宝」1月30日（土）「黄金の丘―ティリヤ・テペ」講師：岸本 圭（当館展示課主任研究員）、「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」講師：河野一隆（当館企画課長兼文化交流展室長）、1月31日（日）「アイ・ハヌム―アレクサンドロス大王が造った都市」講師：小泉惠英（当館学芸部長）、「ベグラム―東西文化の宝箱」講師：臺信祐爾（当館特任研究員）
イベント：28年1月11日（月）「オリエンタル・ベリーダンスショー」
・本展覧会では、教育普及の一環として「こどもガイド」を作成し近郊の小学校配布したほか、会場内では展示品の理解を深めるための教育普及コーナーを設置した。
・日本では、「流出文化財保護日本委員会」が設立され、これをアフガニスタンから不法に国外に持ち出された「流出文化財」を「文化財難民」と位置づけ、これを保護してきた。同委員会が保管してきた102件の「流出文化財」は、本展覧会を契機にアフガニスタンへ無事に返還されることになった。

告知ポスター

体験コーナー
「魚を泳がせてみよう！」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	67,641人	40,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	シルクロードの要衝である古代アフガニスタンの多様な文化を紹介する本展は、まさに当館が実施しなくてはならないものであり、同時に、文化遺産の保護の重要性を強く訴えるものであった。来館者の満足度も9割を超え、極めて有意義であった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	本展覧会は国内外の博物館と連携し質の高い展示が実現した。また国民の文化財保護に対する関心を深めることにつなげることができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　③　海外展

【年度計画】
（東京国立博物館）
１）海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」（26年2月16日～5月10日）
会場：フィラデルフィア美術館（米国）
日本絵画史上最大の画派で室町から江戸末期まで活動した狩野派の全貌を紹介する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」
・会　　期　27年2月16日（月）～5月10日（日）（69日間）
・会　　場　アメリカ・フィラデルフィア美術館
・主　　催　アメリカ・フィラデルフィア美術館、文化庁
・特別協力　東京国立博物館
・作品件数　119件

日本の絵画史上、最大最長の画派として室町時代から江戸時代末まで、画壇の中心に君臨し続けた狩野派の作品を紹介した。流派の始祖・正信から明治維新後に活躍した幕末期、狩野派に学び近代日本画に大きな足跡を残した狩野芳崖、橋本雅邦までの400年余に及ぶ狩野派絵師たちの作品を網羅的にとりあげ、画題内容、画面形式などに注目しながら、各時代における様々な表現の特色とその展開を概観した。

【補足事項】

会場外観

会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	77,214人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 米国において日本絵画史上最大の画派である狩野派の画業を広く紹介することができた。

【中期計画記載事項】海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 日本を代表する画派「狩野派」の作品を広く紹介することで、日本の文化を強く印象付ける機会となり、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2133

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　③　海外展

【年度計画】
（奈良国立博物館）
１）「日本の古墳」展（12月22日～28年2月21日）
会場・主催：国立慶州博物館（韓国）、協力：奈良国立博物館
　日本の古墳の出土品の総合的展示を行う。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室員　岩戸晶子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
１）展覧会名：2015年 韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」
　会　　期　27年12月22日(火)～28年2月21日(日)(52日間)
　会　　場　韓国・国立慶州博物館 特別展示館
　主　　催　韓国・国立慶州博物館
　特別協力　奈良国立博物館
　作品件数　142件
　来館者数　87,662人

　日韓国交回復50周年を記念し、韓国で初めてとなる日本の古墳時代を概観する特別展開催に関し、企画から輸送・展示まで日本側の窓口として協力し、開幕に大きく寄与した。

【補足事項】
「日本の古墳」展開催のための協約書を締結し、国宝29点、重要文化財197点を含む380点に及ぶ借用品の選定には初期から関わり、慶州博への助言や資料提供を行った。
また、展示資料の借用に関しては、折衝や慶州博が提出すべき書類作成などの協助、文化庁に対する輸出申請他の手続きも代行して行った。当館を除く8箇所の所蔵機関、他の協力機関への連絡、各機関と韓国国立慶州博物館間の調整も担ったほか、図録の解説原稿執筆者の選定及び原稿依頼と集約、図録用写真やパネル用の図面類の使用許可に関する手続きも当館が代行した。
日本国内での集荷と奈良までの輸送、輸出梱包、日本から慶州国立博物館への輸送も随時慶州博と協力しながら当館担当者も全てに立ち会った。現地では、開梱・点検・展示作業を主導的に担当し、展示方法や展示環境などに関してもアドバイスや慶州博との協議を通じて展示品の安全で適切な展示環境になるよう努めた。
日本でも類を見ないレベルの古墳展とも言われる充実した内容で開幕した本展は、韓国国内でも好意的に大きく報道され、注目度も高い。5・6世紀の新羅古墳を多く抱える慶州の地で、本展を通じて古墳文化における日本の独自性と日韓交渉の歴史を示せた意義は極めて大きい。

展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	87,662人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　Ａ	【判定根拠、課題と対応】 本展覧会は藤ノ木古墳、新沢千塚古墳の遺物をはじめ、極めて重要な古墳、遺跡からの出土品が厳選された、日本でも類を見ない規模での展覧会となった。日本の古墳を理解するにあたり、目標以上の規模、意義を持った展示を行うことができたと言える。

【中期計画記載事項】海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】 評定：　Ａ	【判定根拠、課題と対応】 古墳文化を共有する韓国において、日本の優れた古墳出土品によって日本の古墳文化の独自性と東アジアにおける位置づけを質量ともに極めて充実した文化財をもとに示すことができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

中項目	２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(1/3)

【年度計画】

(4 館共通)1)(略)日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館 19 室、東洋館 2 室、6 室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。

○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施

・特集「親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり」(4 月 7 日～5 月 17 日)

・特集「親と子のギャラリー　ミイラと古代エジプトの神々」(7 月 22 日～9 月 13 日)

○総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(27 年 3 月 17 日～4 月 12 日)、「博物館でアジアの旅」(27 年 9 月 29 日～10 月 12 日)、「博物館に初もうで」(28 年 1 月 2 日～1 月 31 日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。

○体験型プログラムの実施

・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークや体験型プログラムを実施する。

・本館 19 室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

(東京国立博物館)

2) 3)(略)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　淺湫毅 教育普及室長　小林牧

【実績・成果】

1)　総合文化展を通して歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。

・展示テーマや作品に関連した企画を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、伝統文化への興味関心を高めることができた。

○教育普及的展示として、特集「親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり」を実施し、象をテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料をもとに、象の生態や分化史についてわかりやすく伝えることができた。また、特集「親と子のギャラリー　ミイラと古代エジプトの神々」では、展示の工夫とＩＴ技術を駆使したワークシートによって、古代エジプトの文化ついて興味深く伝えることができた。

○「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」「博物館に初もうで」に関連し、ギャラリートーク、ボランティアによるガイドツアー及び、ぬりえ、衣装体験、ヨガ、スタンプなどの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。

○体験型プログラムの実施

・本館 19 室では、伝統模様のスタンプでポストカードをデザインする体験型プログラムや、作品の制作工程見本の展示、ＩＴ技術により作品の高精細画像を楽しめる体験コーナーを継続して運営した。

・本館地下、東洋館 2 室、6 室、ミュージアムシアターや小講堂において、各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を、展示に応じて、また様々な対象に向けて行った。

・平成館考古展示室のリニューアルに伴い、新たにハンズオンコーナーを設け、レプリカによる触れる展示を開始。

【補足事項】(東京国立博物館)

○体験型プログラムの実施

・総合文化展関連ワークショップ及び関連事業　56 回　16,493 人

・本館 19 室みどりのライオン体験コーナー通年 154,246 人

・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い体験」通年 27,738 人

○特別展では鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。また夏休み期間の 7 月 27 日には、「クレオパトラとエジプトの王妃」展で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」(1,153 人) を開催した。

博物館でアジアの旅　衣装体験

【定量的評価】項目	27 年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	子どもから大人まで幅広い層に向けて、鑑賞体験を深めるためのプログラムを提供することができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画を順調に達成している。新規企画も展開し、設定した目標を超える多くの人びとに博物館に親しむ機会を提供することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(東京国立博物館)
２）学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象)。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象)。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。
3)(略)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　小林牧

【実績・成果】
(4 館共通)
1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数 48 校、35,789 名の学生・教員が本制度を利用し入館した。
(東京国立博物館)
2)学校との連携事業を計画通り実施した。
・スクールプログラムを研究員、およびボランティアにより実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。
・職場体験として、19 校 60 人を受け入れた。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を 7 月 29 日～31 日の 3 日間開催し、39 名が参加した。染織をテーマに、日本文化と博物館への理解を深めると同時に、博物館における鑑賞プログラムについて教員による発表を実施し、互いに意見交換を行った。
・教員鑑賞会・ガイダンスを 3 回実施し、計 546 人が参加した。
○「盲学校のためのスクールプログラム」を 4 校 22 人が参加した。

【補足事項】
1)大学向けの営業を活発化させ、新規で4校に加入いただくことができた。
2)スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、207校8,239人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を、12校275人を対象に行った。

スクールプログラム
博物館の裏側インタビュー　実施風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	48校	－	－		37	38	43	44

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 学校からの評価も定まり、多くの児童・生徒・学生がプログラムに参加し、着実に成果を挙げている。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調に達成している。さまざまなニーズに対応するプログラムを安定的に提供している。学校との対話を深め、よりきめ細かい対応をめざして研究を重ねている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(3/3)

【年度計画】
(4館共通)1)(略)
(東京国立博物館)1)2)(略)
3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。
（講演会等の目標）　参加者数計7,790人（実施回数計78回）
・講演会　参加者数3,500人（実施回数20回）
・ギャラリートーク等　参加者数4,000人（実施回数55回）
・連続講座　参加者数　250人（実施回数 1回）
・公開講座　参加者数　40人（実施回数2回）

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　淺湫毅

【実績・成果】(東京国立博物館)
3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会（シンポジウム含む)・連続講座を継続して実施した。総参加者数　計 17,990人（実施回数　計 146回）
・講演会　参加者数 6,023人（実施回数 23回）　うち月例講演会2,369人（12回)、記念講演会（シンポジウム含む）3,289人（10回)、テーマ別講演会 365人（1回）
・ギャラリートーク等　参加者数 11,669人（実施回数 120回）
・連続講座　参加者数 352人（実施回数 1回）
・公開講座　参加者数 36人（実施回数 2回）

【補足事項】
・その他展示に関連する事業 877人（実施回数 9回）
27年5月　恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業
上野の山でゾウめぐり　1回　32人　ほか

ギャラリートーク
(27年9月
本館特別1室)

※講演会等の参加者数が目標値を大幅に上回った理由
ギャラリートークは会場の広さと作品の見やすさから1回50人程度の参加者数を想定しているが、テーマや作品がお客様のニーズに非常によく合致したこと、また、年度計画にはなかった特別展関連ギャラリートーク(鳥獣戯画　京都高山寺の至宝4回、クレオパトラとエジプトの王妃展4回、始皇帝と兵馬俑3回）を開催したことが、想定を大きく上回る要因となった。
講演会においても、お客様の興味要望に合致したものが多かったため、ほとんどの講演会において想定を上回る参加者数となった。また連続講座も平成館考古展示室のリニューアルオープンを目前に控えたタイムリーな時期に「考古学」をテーマとして開催したことにより、想定以上の参加者を集めることとなった。
関連の展示室に月例講演会の案内看板を事前に掲出する等、企画の広報に努めたことも、参加者増につながったと考えられる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
講演会等の参加者数	18,080人	7,790人	A	経年変化	12,664	13,193	15,777	14,419
実施回数	146回	78回	A		112	126	131	127
うち								
講演会参加者数	6,023人	3,500人	A		8,224	6,952	7,184	6,735
実施回数	23回	20回	B		32	31	30	30
ギャラリートーク参加者数	11,669人	4,000人	A		3,963	5,805	8,205	7,326
実施回数	120回	55回	A		76	90	98	94
連続講座参加者数	352人	250人	A		380	303	354	320
実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
公開講座参加者数	36人	40人	B		97	133	34	38
実施回数	2回	2回	B		3	4	2	2

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	順調。開催回数、参加人数ともに目標を大きく上回った。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	中期計画を順調に遂行出来た。開催回数、参加人数ともに目標大きく上回った。

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　　①学習機会の提供

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(京都国立博物館)
1)京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。
・小中学生向けワークショップ「少年少女博物館くらぶ」ならびに文化財への一般の関心を高めるワークショップなどを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
2)教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・文化財への関心を高めるワークショップなどを実施する。
3)歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。
（講演会等の目標）参加者数計3,300人（実施回数計38回）
・記念講演会　　参加者数　160人（実施回数 1回）
・土曜講座　　参加者数2,850人（実施回数35回）
・夏期講座　　参加者数　170人（実施回数 1回(3日間)）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川曉

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。
(京都国立博物館)
1)・「平成知新館こどもガイド」(20,000部）を発行した。
・「鑑賞ガイド」(「お経って何だろう？」20,000部、「今日から君も獅子と狛犬博士」10,000部）を発行した。
・「触って発見！　ミュージアム・カート」を実施した（年始を除く開館日の毎日）
・ミニワークショップ（「琳派デザインに挑戦！」39回・15,841人）を実施した。
・「少年少女博物館くらぶ」(「ドキドキ！刀にふれてみよう」2回・40人)を開催した。
・「大人の博物館くらぶ」(「古代の鏡　鋳造体験」1回・15人)を開催した。
・「博物館Dictionary」(10回、20,000部)を発行した。

ミュージアム・カート
（京博ナビゲーター）

2)・「文化財に親しむ授業」(7回・658人)、「おしゃべり鑑賞会」(2回・63人）を実施した。
・「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、京都ミュージアムズ・フォー連携フォーラム「琳派を飾る―展覧会から見えるもの―」(1回・120人）を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・91人)を実施した。
・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加した。(2回・256人)
3)・「記念講演会」(1回・200人)、「土曜講座」(32回・3,721人)、「夏期講座(古社寺と文化財Ⅲ)」(1回・206人)を実施した。

【補足事項】
・ミュージアム・カートにはボランティアの京博ナビゲーターが常駐し、来館者はハンズオン教材に触れたり対話を楽しんだりすることができた。
・平成知新館のみどころ案内や、鑑賞に役立つ年表を掲載した「平成知新館こどもガイド」を新たに制作した。また、以前から展覧会に合わせて制作している子ども向けの「鑑賞ガイド」や「博物館Dictionary」は、大人にも入門的な解説書として好評で、モニターアンケートでも評価が高かった。
・26年度に引き続き、東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、仙台にてワークショップを実施した。地元の大学生と連携して実施することで、単発的な復興支援ではなく、継続的に「地域間の交流」や「若者の成長」を促す場を設ける活動としても意義深いものとなった。
・土曜講座は27年度末で1,810回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。27年度は明治古都館調査による閉館に伴い、秋の特別展の前後に全館休館期間が発生したため、土曜講座の実施回数が当初計画よりも少なくなった。

平成知新館
こどもガイド

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

【前ページから続く】

【定量的評価】項目		27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
講演会等の参加者数		4,845人	3,300人	A	経年変化	1,450	3,150	2,062	4,596
実施回数		39回	38回	B		15	19	21	36
うち土曜講座	参加者数	3,721人	2,850人	A		1,199	2,682	1,257	3,888
	実施回数	32回	35回	C		13	16	10	31
うち記念講演会	参加者数	200人	160人	A		－	215	190	193
	実施回数	1回	1回	B		－	1	1	1
うち夏期講座	参加者数	206人	170人	A		193	213	219	206
	実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座	参加者数	91人	－	－		58	40	30	66
	実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
うちセミナー・シンポジウム等	参加者数	627人	－	－		－	－	－	243
	実施回数	4回	－	－		－	－	－	2
うちギャラリートーク	参加者数	－	－	－		－	－	366	－
	実施回数	－	－	－		－	－	8	－
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(26年度までは土曜講座の内数、27年度はセミナー・シンポジウム等の内数)	参加者数	120人	－	－		158	119	157	113
	実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
少年少女博物館くらぶ等	参加者数	15,896人	－	－		75	85	68	57
ワークショップ	実施回数	42回	－	－		2	2	2	2
文化財に親しむ授業等	参加者数	721人	－	－		552	613	435	581
	実施回数	9回	－	－		7	8	7	9
ワークショップ（こどもひかり）	参加者数	256人	－	－		－	－	1,300	620
	実施回数	2回	－	－		－	－	2	2
ワークシート・鑑賞ガイド	発行部数	50,000部	－	－		30,000	110,000	20,000	190,000
	発行回数	3回	－	－		1	3	1	2
博物館Dictionary	発行部数	20,000部	－	－		5,000	5,000	7,000	8,000
	発行回数	10回	－	－		1	1	2	4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： Ａ	「平成知新館こどもガイド」を10,000部予定のところ、好評のため20,000部発行したり、「琳派デザインに挑戦！（15,841人)」など、当初計画を大きく上回るの成果を達成することができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： Ａ	今中期計画内において、25年度「こども☆ひかりプロジェクト」、26年度「ミュージアム・カート」、27年度「大人の博物館くらぶ」など、毎年新たな取り組みにチャレンジし、学習機会の拡大を着実に達成できた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・奈良市教育委員会と連携した世界遺産学習を全国の小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
2)(略)
3)奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を行う。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。

担当部課	総務課渉外室企画推進係 学芸部教育室	事業責任者	係長　石田義則 室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、27年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。
(奈良国立博物館)
1)
・奈良県内の小中学校に対してメールマガジンの配信を行った。
・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。
・世界遺産学習事業は、全国各地の小学校37校、合計2,440名に対して実施した。
・中学2年生の職場体験を4校9名受け入れた。
3)奈良教育大学が主催し奈良市教育委員会が連携するESDプログラム開発の研究会に参加し、世界遺産学習プログラムの刷新に向けて検討を重ねた。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
5)地下回廊で仏像模型や写真パネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。

【補足事項】

小学生に向けた世界遺産学習の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	27校	－	－		28	27	26	27

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 26年度に引き続き、多くの大学等と連携を図ったほか、近隣のキャンパスメンバーズ未加入大学に対し、広報を行い新規勧誘に努めた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 大学と連携し世界遺産学習プログラムの検討を行い、実施する等、中期計画通り順調に学習機会を提供し成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2213-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①学習機会の提供　(2/2)

【年度計画】
(4館共通) 1)(略)
(奈良国立博物館) 1),3)～5)(略)2)講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・正倉院展において小学生とその家族を対象とした講座を実施する。
(講演会等の目標)　参加者数計2,650人（実施回数計27回）
・特別展等講座　参加者数1,500人（実施回数14回）
・夏季講座　参加者数　500人（実施回数 1回（3日間 9講座））
・サンデートーク　参加者数　650人（実施回数12回）

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
2)講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計1,242人の参加があり、アンケート結果で平均満足度85%を得た。
・公開講座は3つの特別展及び4つの特別陳列の会期中に15回実施。計2,123人の参加があり、平均満足度79%を得た。
・正倉院展に関連したシンポジウムとして「正倉院学術シンポジウム2015」を27年11月1日に実施。4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。196人の参加があり、平均満足度93%を得た。
・夏季講座は「白鳳－歴史と美術－」と題し、奈良県文化会館を会場に27年8月18日～20日の3日間実施。講師は9人、609人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を28年2月7日に実施し、42人の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開は、28年1月14日に3回実施し、計121人の参加があった。
・第67回正倉院展では、27年11月3日に「親子鑑賞会」を実施し、172名の参加があった。
(講演会等の目標)　参加者数　計3,974人（実施回数計28回）
・特別展等講座　参加者数　2,123人（実施回数15回）
（うち公開講座14回・1,927人、シンポジウム1回・196人）
・夏季講座　参加者数　609人（実施回数1回（3日間1講座））
・サンデートーク　参加者数　1,242人（実施回数12回）

夏季講座「白鳳－歴史と美術－」会場風景

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
講演会等の参加者数	3,974人	2,650人	A		3,006	3,454	3,219	3,525
実施回数	28回	27回	B		28	29	26	27
うち特別展等講座参加者数	2,123人	1,500人	A		1,839	2,172	1,682	1,986
実施数	15回	14回	B		15	16	13	14
うち夏季講座　参加者数	609人	500人	A		522	438	587	561
実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	1,242人	650人	A		645	844	950	978
実施数	12回	12回	B		12	12	12	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、目標値を上回る参加者数が得られた上、アンケートにみる満足度も高かった。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 奈良教育大学、奈良市教育委員会との連携協力を行い、学習プログラムの開発を進めており、中期計画に対し順調に実施した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(1/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
2)～9)（略）

担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)
・体験型展示室「あじっぱ」を運営するとともに、これまでの調査研究で得られた知見を加味して、ＢＯＸキット等の体験資料を開発し、新規に収集した資料の紹介を行った。
・「なりきり学芸員体験」や「ガムランワークショップ」「行こうよ！あじっぱ夏祭り」等のワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきゃらばん」と名づけた教育普及活動を継続的に行うなど、幅広い層に向け教育活動の場を提供した。
・「あじっぱ」においてアジア諸国の文化を紹介するとともに、体験学習プログラムを行うことで、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める運営を図った。また、ＢＯＸキット等の体験資料を開発した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)
・教育普及活動「きゅーはくきゃらばん」を14回実施。当館の体験プログラムを基本に、新規開発したプログラムを提供した。実施回数は年々増加しており、県内では福岡県立少年自然の家「玄海の家」や九州芸文館、遠方では被災地支援のため、福島県、宮城県、秋田県まで派遣した。
・「行こうよ！あじっぱ夏祭り」は2日間でのべ555人が参加した公開型のワークショップで、27年度は同時期に開催した特別展「大英博物館展」に関連させたプログラムを提供した。
・合計7件の体験学習プログラムを開発した。(「モンゴル」「あやつり人形」「あじっぱキッチン（各国のキッチングッズ)」「おひなさま」「針聞書」「東南アジアの楽器」「ミャンマー」)
・入口付近のディスプレイでは4回の特集展示を実施した。(「子どもが主役」「動物」「正月　干支（申)」「中国」)
・小学校児童向けに「わくわく通信」を5回発行し、広報に努めた。体験プログラムや子ども向けのイベントを告知するチラシで、博物館近隣の筑紫地区・粕屋地区・福岡市の全小学校に、毎回136,500枚を配布している。
募集型の体験プログラムは毎回ほぼ定員に達した。

夏祭りでのプログラムの様子

わくわく通信

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	プログラムの改善や開発が順調に進んでいる。また、幅広い年齢層に向けた体験の場の提供ができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	開発したプログラムは館内のみならず、学校（出前授業）や他の博物館等（きゅーはくきゃらばん）においても提供し、中期計画どおり学習機会を広く提供できた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)(略)
2)学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
3)～8)(略)
9)放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　石橋伸二

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。
(九州国立博物館)
2)・職場体験（中学生）を22校106人（のべ50日間）受け入れた。
・高校生ジュニア学芸員は、10校26人が参加し、計8回の継続プログラムとして実施した。
・教員向けの研修会を6回実施した（うち2回は福岡県教育センターのキャリアアップ講座)。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、75件の貸出しを行った。
・出前授業や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。
9)・放送大学の面接授業を実施した。(「博物館を学ぶ」11月14日、15日)

教員向け研修の様子

【補足事項】
(4館共通)
1)大学等との連携を継続させるため、27年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校等)が新規及び継続で入会した。
加入校内訳(大学 15校、短期大学 3校、専門学校 1校、高等学校 6校)
・会員校の学園祭に協賛した。(5校)
・特典の利用として文化交流展を3,992人（学生3,803人、教職員189人)、特別展を3,687人（学生3,331人、教職員356人）が観覧した。また、パスポートを2,401人（学生2,201人、教職員200人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	25 校	－	－		28	24	24	24

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ加入校数について26年度数を維持することができ、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(3/3)

【年度計画】(4館共通)1)(略)(九州国立博物館)1)2)(略)
3)シンポジウムを開催する。
4)特別展記念講演会を開催する。
5)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
6)ミュージアムトークを随時実施する。
7)文化施設等へ講師を派遣する。
8)特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。　9)(略)
（講演会等の目標）　参加者数計5,500人（実施回数計74回）
・特別展記念講演会　参加者数　700人（実施回数 4回）
・講演及びシンポジウム　参加者数　3,000人（実施回数30回）
・ミュージアムトーク　参加者数　1,800人（実施回数40回）

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　石橋伸二

【実績・成果】
3) 国際シンポジウム「九州国立博物館開館10周年記念『アジア交流博物館長サミット』」を開催した。(27年10月18日：80人参加)（詳細は処理番号3214参照）
4)特別展記念講演会を3回開催した。
5)講演会等を38回開催した。
6)定期的にミュージアムトークを46回開催し、展示物を見ただけではわからない内容を紹介した。
7)文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市　アクロス・文化学び塾等)
8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を実施した。

【補足事項】
8)・特別展「戦国大名」では、「戦国大名の手紙」をテーマに、紙の原料と紙に触れる体験、切封体験、花押制作体験の３箇所の体験コーナーを展示室内に設けた。また、出品作品の兜をペーパークラフトで作るワークショップ「手づくり兜を作ろう」を行った。
・特別展「大英博物館展」では、体験コーナー「楔形文字を書いてみよう」や「アストロラーベを使ってみよう」を企画し、展示室内で体験してもらった。子ども向けのプログラムとしてジュニアガイドを製作し、事前配布、及び来館した小中学生に配布したほか、親子、一般を対象にしたイベント「夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム」を計 5 回実施した。また、プロモーションビデオを製作し、展覧会を周知した。

ナイトミュージアムの様子

・特別展「美の国　日本」では、「技あり日本！」を実施した。３Ｄプリンタで出力した銅鐸や銅鏡を触れるコーナー、漆の技法「蒔絵」をパネルや動画、道具で紹介、葦手絵をパネルで紹介した。
・特別展「黄金のアフガニスタン」では、古代の衣装の装飾と衣装を再現し、試着体験コーナーを設けた。また、アフガニスタンや展覧会について楽しく学べるこどもガイドを製作し、近郊の小学生に事前配布したほか、来館した小中学生に配布した。
・特別展「始皇帝と大兵馬俑」では、ジュニアガイドを製作し、近郊の小学生に事前配布したほか、会場入り口にて小中学生に配布した。また、展示室内では体験コーナー「秦の単位で身体測定」を実施し、秦の単位で数字が表記してある身長計と体重計を設置して体験してもらった。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
講演会等の参加者数	6,212人	5,500人	B		7,833	8,354	7,276	4,694
実施回数	87回	74回	B		89	102	90	82
うち特別展記念講演会　参加者数	710人	700人	B		1,500	966	1,108	980
実施回数	3回	4回	B		7	5	5	4
うち講演及びシンポジウム参加者数	4,096人	3,000人	A		4,592	4,918	4,450	2,132
実施回数	38回	30回	A		39	45	38	26
うちミュージアムトーク　参加者数	1,406人	1,800人	D		1,741	2,470	1,718	1,582
実施回数	46回	40回	B		43	52	47	52

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 参加者数、実施回数ともに多彩な教育普及事業を展開し、来館者アンケート回答からも展覧会とともに高い評価を得た。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】当館独自の分かりやすく親しみやすい展示として定着し、好評を得ており、学習機会の提供という中期計画を達成した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)各種教育事業及びイベントの補助活動等の充実を図る。
2)点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
3)自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室　室長　鈴木　みどり

【実績・成果】
1) 館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動、スクールプログラム班による学校団体向けプログラムの一部を実施。また、今年度より保存修復班を立ち上げ、保存修復活動の補助をボランティアにより実施した。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。
3)全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。
4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。

【補足事項】
2)バリアフリー活動として、点字パンフレットを11冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月1回、全6回)を実施した。
3)・各自主企画グループ及びボランティア活動紹介ツアー等を実施した。
(391回14,522人)
・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、近代の美術ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー）が活動した。また、たんけんマップグループが印刷物を作成した。
・ボランティアに対する研修を行った。(45回、解説会2回)

来館者を案内するボランティア

※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。詳細は処理番号2231

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	173人	－	－		169	170	169	173
うち生涯学習ボランティア登録者数	160人	－	－		163	164	152	158
※うち東京藝術大学大学院インターンシップ数	13人	－	－		6	6	17	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 教育普及事業に加え、保存修復活動の補助の開始等による活動の充実をはかり、順調に目標を達成している

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ボランティアを支援し、自主企画グループによる活動を促す等順調に中期計画の目標を達成している

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
1)教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
2)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
3)文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川曉

【実績・成果】
（京都国立博物館）
1)・京博ナビゲーター（151人）が下記の活動を行った
　平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（通常活動・年始を除く開館日毎日）
　特別展観「琳派　京を彩る」に関連したミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」(39日)
　教育普及活動の補助（夏期講座・少年少女博物館くらぶ・大人の博物館くらぶ）
・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会を実施した（12回）
・京博ナビゲーターのモチベーション向上と博物館活動への理解を深める「感謝会」を実施した（1回）
・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した（仮面複製・根付複製）
2)・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(26人)
3)・文化財ソムリエ（19人）が下記の活動を行った
　京都市内の小中学校への訪問授業(7回)
　京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」(2回)
　「こども☆ひかりフェスティバル」「こども☆ひかりミュージアムストリート」　への参加（2回）
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(22回)
4)「京都・らくご博物館」において、26年同様、大学生をボランティアとして起用した。(18人)

【補足事項】
1)京博ナビゲーターは、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。特別展覧会「琳派―京を彩る―」の期間中には、京博ナビゲーターが毎日ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を実施し、15,841人の参加者があった。
2)各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
3)文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（19名）に対して、当館研究員がスクーリング22回を実施。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。本年度は「平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、他館活動の調査なども精力的に行った。

文化財ソムリエの訪問授業

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	214人	－	－		64	45	45	210
うち京博ナビゲーター	151人	－	－		－	－	－	163
うち調査・研究支援ボランティア数	26人	－	－		22	21	25	16
うち文化財ソムリエ数	19人	－	－		14	16	13	22
うちらくご博物館学生ボランティア数	18人	－	－		10	8	7	9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	年度計画に基づき、各種取り組みを実施することができた。さらに特に京博ナビゲーターに関して、新たな活動の実施や、それに付随する研修、感謝会の実施など、ボランティアのモチベーション向上や、ボランティア自身の学習機会を提供することができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	中期計画期間において、これまで積極的に取り入れて来なかったボランティアの活動を開始し、教育活動の充実につなげることができた。また、博物館の中に、人と人とのコミュニケーションを持ち込んだ意義は大きい。ボランティア自身の生涯学習の場としても博物館が機能しており、新たな活動の展開も見られた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】(奈良国立博物館)
1)27年度の新規募集に伴い、新制度Ⅱ期目となるボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動をスタートさせる。
2)ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
3)勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長　清水　功

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)　4月から世界遺産グループ53名、解説グループ63名、サポートグループ41名の合計157名で、新制度Ⅱ期目の活動をスタートした。世界遺産学習として小学校37校・2,440名を受け入れたほか、幼稚園から高校まで学校団体の案内を行った。正倉院展の会期中は、ボランティアによる講堂解説を毎日実施し、成果を上げた。
2)　ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。すべての展覧会図録を配布して、解説と自己研鑽のための学習資料とした。正倉院展の講堂解説では、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習に立会い、指導した。
3)　グループ別に、知識向上と連携を図るため、テーマを決めて毎月の勉強会を実施し、ボランティア室が立会いと指導に当たった。解説グループでは、オブザーバーとして学芸部が立会い、指導した。ボランティアの研鑽と親睦を兼ねて社寺名跡見学会を実施した。
4)　ボランティアの自主的な企画として、敷地内の茶室庭園案内ツアーを実施した。

【補足事項】
1)・各グループを更に小チームに分け、チームリーダーを軸にして円滑な運用を行った。また、定期的にボランティア会議を開催してボランティアと博物館の意思疎通を図った。
・解説グループは、通常のガイドの他に、新人研修を兼ねて地下回廊の仏像写真展「大和の仏たち-奈良博写真技師の眼-」のガイドを実施した。
・世界遺産学習では、なら仏像館休館に伴い、特別プログラム「仏像・いろいろ」を実施した。
・正倉院展講堂解説では、グループの枠を超えて協力しあうことによりボランティアの資質向上と強化に繋がった。
3)・社寺名跡見学会を27年9月(正倉院正倉、平城宮跡)及び28年1月（東大寺）の計3回実施した。
4)・庭園茶室見学ツアーを27年11月に2日間実施した。
・ボランティア通信紙「BRIDGE（ブリッジ）」を3ヵ月毎に発行した。
・他施設とのボランティア交流会を27年12月及び28年1月の計2回実施した
・ボランティアのチーム力強化のため親睦会を27年12月に実施した。

世界遺産グループの活動風景

サポートグループの活動風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	157人	－	－		87	121	114	110
うち世界遺産グループ数	53人	－	－		－	42	41	38
うち解説グループ数	63人	－	－		－	43	39	43
うちサポートグループ数	41人	－	－		－	36	34	29

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たなボランティア制度のⅡ期目の初年度にあたってそれぞれのグループについて増員を図り全体で150名を超えるボランティアを受け入れ一層の充実に努めた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間中にボランティア制度の見直しを行うとともに担当室を設置し活動支援を一元化した。さらにボランティアの受け入れ人数も旧制度に比して約1.8倍となりボランティアの活動機会の増加により教育活動の充実が図られた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
2)ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員　八尋智之

【実績・成果】
1)第3、4期ボランティアの自主的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。
2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質が向上し、活性化、発展した。
3)各部会において研修やボランティア同士のグループ別学習、活動を行った。

【補足事項】
1)第4期ボランティアを中心に、第3期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・各期ボランティア数（27年度当初）
第3期ボランティア（23年4月から活動）数　144人
第4期ボランティア（26年4月から活動）数　208人
・通常の活動においては、1日平均30～40人、1ヵ月平均延べ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の案内、博物館内のIPM活動。日常的な手話通訳ボランティアの待機体制の確立。

ボランティアが講師を務めたAED研修実施の様子

2)・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
〔主な研修〕
障がい者接遇・英語解説講座・古文書講座・陶磁器講座・展示替え研修など
〔主な館外研修先〕
壱岐市立一支国博物館・兵庫県立人と自然の博物館・装飾古墳館等
3)・企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。
〔実施したイベント等〕
・ボランティアフェスタ（27年10月）⇒開館10周年記念イベント
・子どもフェスタ（28年2月）⇒のべ2,500人参加　など

ボランティアフェスタで３Ｄプリンタ出力の土器を使って説明する様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
ボランティア数	352人	－	－	経年変化	355	308	287	352
うち展示解説ボランティア数	86人	－	－		84	77	75	86
うち教育普及ボランティア数	37人	－	－		48	41	39	37
うち館内案内ボランティア数	38人	－	－		31	29	26	38
うち外国語案内ボランティア数	94人	－	－		89	69	63	94
うち環境ボランティア数	33人	－	－		38	35	29	33
うちイベントボランティア数	6人	－	－		10	6	6	6
うち資料整理ボランティア数	25人	－	－		20	19	19	25
うちサポートボランティア数	24人	－	－		25	23	22	24
うち学生ボランティア数	9人	－	－		10	9	8	9

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】毎月開催のボランティアの連絡会で、行事等の見通しが持てるように計画的に情報提供したことで、26年よりも積極的に活動に参加するボランティアが増えた。また、ボランティアの自主的な研修会を多く企画することができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】ボランティア活動を支援し、教育活動の充実に計画どおり寄与できた。例えば、来館した学校団体へは、当館の概要説明や展示室の案内などを実施した。学校等へボランティアが講師として訪問する機会はやや少なかった。また、特別支援学校への対応は職員を中心に行っているが、当館ボランティアも含めて、対応を検討していく必要があると考えている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（東京国立博物館）
1)各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。
2)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】（４館共通）
1)26年度に創設したベーシック会員（総合文化展無料会員）は2年目にして2,500人を超えた。また、賛助会個人会員は制度改定後順調に増加している。パスポート、友の会は特別展の内容により増減するため、27年度は微減となっているが、今後も増加できるようPRに努めたい。
2)友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。
3)マスターカードやアメリカンエキスプレスと協同でキャンペーンを行い、認知度の向上に努めた。
4)一部特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
5)外国人来館者向けの取組みについてワーキンググループを発足させ、検討を開始した。
（東京国立博物館）
1)26年度の会員制度の一元化により、下位の区分の会員から上位の区分の会員への移行が順調に増加した。特に賛助会個人の維持会員は47人、13%程度増加し、順調である。
2)上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。上野文化の杜新構想実行委員会と協同で、上野の11文化施設が協同で共通入場券を創設、上野地域の連携及び新たなファンの拡大に努めた。

【補足事項】
（東京国立博物館）
2)上野地区共通入場券の発売に際しては、東京都及びアーツカウンシル東京より助成を得、8施設の共通入場券及び11施設のスタンプラリーを実現させ、地域連携の礎を築くことができた。

上野文化施設共通入場券UENO WELCOME PASSPORT

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
友の会会員数	2,041人	－	－	経年変化	1,802	1,570	1,586	2,145
パスポート会員数	18,157人	－	－		17,672	16,569	16,474	20,302
ベーシック会員数	2,789人	－	－		－	－	－	1,038
賛助会員数	464件	－	－		292	332	379	414
個人会員（プレミアム）	2人	－	－		－	－	－	2
（特別）	8人	－	－		－	－	－	6
（維持）	392人	－	－		238	269	315	345
団体会員（プレミアム）	－	－	－		－	－	－	－
（特別）	20団体	－	－		19	20	20	20
（維持）	42団体	－	－		35	43	44	41

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調に推移している。特に賛助会個人会員の増加が著しい。また、新規で創設した総合文化展のみの年間会員「ベーシック会員」も２年目にして2,500人を上回るなど順調に推移している。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 上野の8文化施設の共通入場券及び11文化施設のスタンプラリーを行う等、地域連携を強め、博物館支援者の増加をはかる取り組みを順調に行っている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
2)ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。
3)海外を含む企業等と連携し施設を有効活用することで、博物館の認知度向上を図る。
4)近隣の自治体をはじめとする諸団体との連携の推進を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 企画室長　浅見龍介

【実績・成果】(4館共通)
1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知向上に努めた。
4)当館主催イベント「音燈華コンサート」の際に、共催として大和ハウス工業より協賛を受けた。
5)訪日外国人をターゲットにしたイベントなど、この時期にふさわしい各種事業の検討を行った。
（京都国立博物館）
1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
2)「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、企業4社と個人1名が新たに加わった。
3)海外企業等に対し、明治古都館及び平成知新館を有償で貸与する等建物の有効活用を行うことにより博物館の認知度向上を図った。
4)近隣の自治体や諸団体等と広報活動やイベント等を実施し、連携推進を図った。

【補足事項】
(4館共通)
2)当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」提示により、グッズ等が10%引きで購入できる等の特典がある。
3)・凸版印刷株式会社と連携し、「新春 京博こと始め2016」及び「新春 京博『さるづくし』」を開催した。
・ジェイアール京都伊勢丹と連携し、「獅子・狛犬像 守護獣巡り」や「新春祭トークショー」を開催した。
・三越伊勢丹や三菱東京UFJ銀行、月刊誌「家庭画報」等と連携し、特別鑑賞会を開催した。
・ＪＲ東海と連携し、「京　冬の旅」に伴い28年1月13日～3月13日まで、京都国立博物館入館券付き旅行券を「ＪＲ東海ツアーズ」「近畿日本ツーリスト」「東武トップツアーズ」の各旅行会社から販売した。
(京都国立博物館)
3)・カルティエが、明治古都館を会場に「カルティエ ロワイヤル」を開催した。
・ブレゲ及びハイアットリージェンシー京都が、平成知新館グランドロビーを会場に「プライベートサロン in 京都2015」を開催した。
4)・京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、4館相互割引、広報のための合同パンフレットの製作、連携フォーラムやスタンプラリーなどを実施した。
・京都府と連携し、「コシノジュンコ　琳派の世界」（ファッションショー）及び大琳派祭プロジェクションマッピング「美の継承」を開催した。
・京都市と連携し、「親子で行く修学旅行」を開催した。

「カルティエ　ロワイヤル」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
パスポート会員数	7,108人	－	－		2,667	3,064	2,295	6,522
ミュージアム・パートナー会員数	6件	－	－		2	－	－	1
清風会会員数	362人	－	－		373	353	336	350
うち賛助会員数	32人	－	－		34	33	30	32
うち特別会員数	65人	－	－		61	60	58	63
うち普通会員数	265人	－	－		278	260	248	255

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 企業や自治体等と連携し、イベントや閉館後の特別鑑賞会等を開催し好評を得た。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ミュージアム・パートナーを26年度より開始し、会員数を増加させた。また、企業との多彩な連携事業を展開するなど、博物館支援者の増加を図ることができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
1)支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
2)支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
3)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
4)地域、企業との連携を推進する。
5)スタンプカードを発行し、公開講座・サンデートークの受講回数に応じた特典グッズを進呈する。

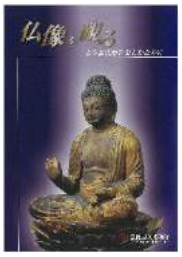
担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】（４館共通）
1)パスポート会員　会員数3,591人(一般3,443人、学生106人、家族42人)
2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。
3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。
4)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
5)28年度販売開始予定の外国人向け冊子「ミュージアム・３DAYSフリーパス・関西」へ参加申請した。
（奈良国立博物館）
1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
3)賛助会員25団体49人(特別支援会員：4団体、特別会員：4団体、一般会員(団体)：17団体、一般会員（個人)：49人)
4)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。
　奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら2015」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。
5)スタンプカードを発行し、公開講座・サンデートークの受講回数に応じて奈良国立博物館グッズなどを進呈した。

【補足事項】
・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。
・日本香堂の寄附により作成した仏像彫刻の解説冊子『仏像を観る』(日本語版、英語版)を館内設置の修理募金への寄附者に配付

なら燈花会

なら瑠璃絵



仏像を観る（日本語版）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
パスポート会員数	3,591人	－	－		2,615	2,486	2,598	3,162
賛助会員数	74件	－	－		65	68	70	73
うち特別支援会員数	4団体	－	－		5	5	5	5
うち特別会員数	4団体	－	－		5	5	4	4
うち一般会員数	66件	－	－		55	58	61	64

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 パスポート会員が昨年比429名増や、賛助会員が1会員増など新たな博物館支援者を獲得する事ができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 継続的に会員制度の広報及び募集を行い、順調に新規会員を獲得できており、中期計画に対し順調である。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長　　阿部　勝 課長　　田端幸朋 交流事業室事務主査　岩橋神奈子

【実績・成果】
1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、トピック展示チラシ等の送付を行った。
3) 企業等と連携し、広報活動を行った。
4) 展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。
5) 既存のものも含め、館内表示等の多言語対応の見直し等の検討を実施した。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
1)「年間パスポート」の広報を実施した。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等を連携したイベントを開催した。
・地域住民、NPO法人、高校等と連携して、10周年を祝うイベントを日替わりで5日間開催した。地元グループ「大宰府万葉会」と開催した「万葉集つくし歌壇」では、奈良時代に大宰府で詠まれた万葉集の代表的な歌を、参加者が当時の人々の衣装を着て発表した。
・西日本新聞社及び九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財である「博多祇園山笠」の飾り山を開館以来10年連続してエントランスに展示した。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携して、子どもたちを対象にしたワークショップイベントや児童画展を開催した。
・地元の福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。

10 周年イベントのひとつ
「万葉集つくし歌壇」の様子

定期コンサートの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
友の会会員数	206 人	－	－		117	196	141	192
パスポート会員数	5,571 人	－	－		3,093	4,224	4,633	4,990

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 友の会及びパスポート会員数は26年度より増加した。特別展主催者からの申し入れもあり友の会・パスポートの積極的な広報を控えた。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間内において、「友の会」等の会員制度について、徐々にではあるが順調に会員数を増やした。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2231

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。
2)東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象)。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室　室長　小林　牧

【実績・成果】
1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、学芸研究部・学芸企画部の 9 部署で 10～30 日間の活動を行い、13 大学 23 名が修了した。
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般についてセミナー、講座を実施した。
2)東京藝術大学との連携事業として、藝大生によるギャラリートークを実施し、学生の貴重な経験となったと同時にお客様へのサービスの充実にもつながった。

【補足事項】
1)インターンシップ
・インターンシップの募集は、近隣の 60 大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。
・インターンシップ受入部署
学芸企画部：教育普及室、教育講座室、情報管理室、150 年史編纂室、デザイン室、広報室
学芸研究部：上席研究員、保存修復課、平常展調整室
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした博物館学講座　(8 月 3 日～7 日、参加　22 大学・37 人)
2)東京藝術大学との連携
藝大生によるギャラリートーク　インターン 13 人　計 51 回　聴講者 1,913 人

キャンパスメンバーズを対象とした博物館学講座　演習風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。各事業を実施し、目標を達成した。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。中期計画通り実施し、充実した内容で、学生の期待にこたえることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2232

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　③　大学との連携

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
１）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文社会論講座において、研究員4名によって8科目の授業を担当し、文化財美術作品の実物を教材として研究指導を行った。

【補足事項】

・研究員4名は客員教授3名、客員准教授1名の体制で、京都大学大学院人間・環境学研究科在籍の学生に対して、博物館所蔵の文化財･美術品の実物を使用して具体的な実物観察技術の伝達や作品調書の作成方法などの専門的な教育を行った。また博士後期課程の学生にはその専門について適切な指導を行った。

・京都大学大学院生を京都市内の寺院文化財調査に同行してもらい、文化財調査の実地訓練を行った（写真）

・京都大学国際交流センターの日本語・日本文化研修留学生に対して客員教授の1名が「日本の考古学と出土品」に関する特別講義を行い、博物館の見学会を行った。(27年11月11日に実施。参加者30名)

寺院の文化財調査に同行する大学院生

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 京都大学の博士後期課程及び修士課程の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施した。また留学生研修プログラムに協力して国際交流を図った。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 京都大学の博士後期課程と修士課程の学生を指導して計画通り着実に人材育成を図った。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2233

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象)。
2)奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。
3)大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課総務係 学芸部教育室	事業責任者	係長　植田淳也 室長　谷口耕生

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期2人、後期1人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生7人であった。
2)奈良教育大学が主催し奈良市教育委員会が連携するESDプログラム開発の研究会に参加し、世界遺産学習プログラムの刷新に向けて検討を重ねた。
3)京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(27年10月1日)

【補足事項】

正倉院展特別講義

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 大学との連携事業による教育活動を通じて、歴史・伝統文化の発信に努めることができた。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の期間において、継続して大学との連携事業を実施し、各種の取組みにより人材育成に寄与できたことから、中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2234

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課	事業責任者	課長　今津節生 教育普及室事務主査　平田知加洋

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生を9大学13人、計9日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は4大学6人)
○博物館見学実習に対応した。(7件450名)

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)
・装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(27年8月17日～21日)
九州産業大学2人、佐賀大学1人、別府大学1人、広島市立大学2人、吉備国際大学1人の合計5大学7人が研修に参加した。研修では屏風の下貼り作製に関する講義と実習を通じて、文化財保存修復に対する参加学生の理解と研鑽を深めることができた。

(九州国立博物館)
1)・実習実施期間
27年8月19日～8月31日(のべ9日間)(合計9大学13人)
＊台風15号の影響により、8月24日の実習は中止したため9日間となった。
・実習内容
博物館の各機能に関するレクチャー、実習(来館者対応、展示企画の立案)等を行った。
○見学実習として対応した大学は、崇城大学、九州産業大学、九州大学、香蘭女子短期大学、熊本大学、九州共立大学、筑紫女学園大学(合計７校450人)。
九州国立博物館の概要についての講義・展示室の解説等を行った。

博物館実習(ナイトミュージアム事前説明)

博物館実習(博物館科学の講義風景)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
インターンシップ及び博物館実習参加者数	20人	－	－		28	29	28	21

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 館内各部門と連携・協力し、順調に博物館実習を実施できた。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 博物館実習、見学実習を継続して実施できており、中期計画どおり人材育成に寄与できた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実　(1/2)

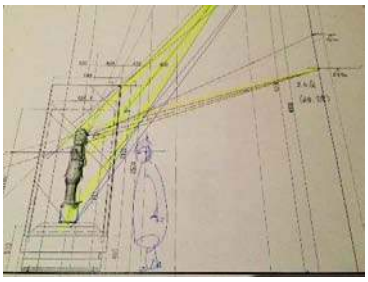
【年度計画】(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(東京国立博物館)
1)多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
2)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
3)～6)(略)

担当部課	総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	環境整備課長　若林賢一 特別展室長　丸山士郎 デザイン室長　木下史青

【実績・成果】
1)　当館開催の特別展のうち、６つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展「始皇帝と大兵馬俑」の音声ガイドでは、壇蜜（タレント）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.3%となった。
（東京国立博物館）
1) 平成館・本館連絡通路に、多言語での考古展示室・特別展への案内パネルや、大型グラフィック他、誘導サインを増設した。
2) 平成館特別展用の特注スポットライトが不足しているため、新たに購入・補充を行った。
2) 考古展示室「国宝埴輪 挂甲の武人」の顔への特注狭角スポットライトを製作・設置した。

本館平成館連絡通路の大型グラフィックサイン

平成館特別展用特注スポットライト（画像は試作）



考古展示室「国宝埴輪 挂甲の武人」の顔への特注狭角スポットライト

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数	223,331台	－	－		319,172	225,235	154,056	261,241
展示照明整備件数	3件	－	－		3	3	2	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 音声ガイドの提供、展示室の照明の整備、サイン版等も所期の目標を達成している。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の所期の目標を達成している。 引き続き次期中期計画おいても施設・設備等の充実推進を目指す。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実　(2/2)

【年度計画】(4館共通)1)(略)(東京国立博物館)1)2)(略)
3)総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。「トーハクなび」の「本館2階　日本美術の流れコース」については作品解説も搭載し、それと連動したパンフレットを制作・配布する。
4)障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。
5)「総合案内パンフレット」(7言語（8種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
7)育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　小林　牧 室長　伊藤信二

【実績・成果】
3)24 年度より公開しているアプリ「トーハクなび」（日・英）の提供を継続した。
利用者の使用状況を把握するためのシステムを設け、27 年 4 月からログを収集、28 年 1 月より集積したログの分析を開始した。27 年 10 月には平成館考古展示室のリニューアルに伴い「日本の考古コース」の改定を行い、新たに「今日のオススメ」作品ガイド機能を搭載した。28 年 3 月に時代のニーズに対応した 64 ビットシステムに更新、内容やＣＭＳ機能の改定も実施した。また、学校での団体利用に対応する専門アプリ「トーハクなび　スクールプログラム」の開発を行った。
4)障がい者のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。
5)総合案内パンフレット「案内と地図」（7 言語(8 種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。
6)本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ 3 言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。日本語版はトーハクなびの「今日のオススメ」と連動させたパンフレット「日本美術の流れ今日のオススメ」を隔月発行、配布した。また、総合文化展の鑑賞支援のための子供向けワークシート「本館１階見学マップ」「本館 2 階見学マップ」「日本の伝統もよう」を制作・配布した。
7)これまで試行実施に留まっていた託児サービスを、26 年度より引き続き通年で実施した。

【補足事項】
3)各アプリの今年度のダウンロード件数は以下の通りである。
・Android 版「トーハクなび」3,161 件（累計 9,711 件、24 年 4 月 18 日公開）
・iOS 版「トーハクなび」6,141 件（累計 15,587 件、25 年 9 月 26 日公開）
・iOS アプリ「法隆寺宝物館 30 分ナビ」650 件（累計 23,576 件、23 年 1 月 20 日公開））

「トーハクなび」
平成館考古展示室リニューアル版画面

（東京国立博物館）
7)託児サービスを引き続き実施した。託児サービスは、正門プラザ内の託児室を使用。サービスは原則毎月第1・第3土曜日、第2・第4水曜日の4回提供を行い、27年4月4日(土)～28年3月26日(土)の44回実施、利用者数は94人（児童数101人）だった。26年度に引き続き、アンケートでは利用された全てのお客様から、サービスに対して満足であるとの回答を得た（「大変良かった」90%、「良かった」10%)。今後は更に利用者の増加を図るため、ウェブによる告知等、引き続き広報活動を進める。
○26年に引き続き正門プラザ内授乳室を開放した。
○23年度より開始したベビーカー貸出サービスを継続した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
リーフレット等	7言語	7言語	B		7	7	7	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。「トーハクなび」は展示に合せた改定を行ない、さらに作品解説を増やすなどのサービスの充実に努めた。託児サービスが定着した。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 スマートフォンアプリによる日英のでの情報発信や、子ども連れに対するサービスの継続など、来館者のニーズに即したサービスを充実させ中期計画を順調に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(京都国立博物館)
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための観覧環境を検討する。
2)館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。
3)平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用し、来館者に対するサービスの向上を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　伊藤嘉章

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
(京都国立博物館)
1)平成知新館において特別展覧会「琳派　京を彩る」を開催するための観覧環境を検討した。
2)館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布した。
3)平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用した。また、特集陳列「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」では、ゲーム『刀剣乱舞-ONLINE-』のキャラクターを演じる声優陣が担当する音声ガイドを制作し、来館者に対するサービスの向上を図った。

音声ガイド看板

【補足事項】
(4館共通)
1)特集陳列「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」では、知名度のある作品に音声ガイドをつけたところ、来館者数増に大きな効果があった。
(京都国立博物館)
1)音声ガイド利用台数　計109,167台
特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」(日本語のみ) 20,375台
特別展覧会「琳派　京を彩る」(日本語のみ) 50,956台
名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)37,836台
2)ロープパーテーションなどで、動線を明確にし、滞留の起こりそうな箇所にはキャプションを増設するなどして混雑緩和を図った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数 リーフレット等	109,167台 6言語	－ 6言語	－ B		34,095 6	35,037 6	17,202 6	76,671 6

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	平常展（名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を活用し、積極的な情報提供を推進した。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	館内案内リーフレット制作・配布各種案内及び音声ガイド等の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を行う。
2)誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
3)正倉院展の際に託児室を設置する。
4)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。
5)館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
6)外国語による案内について、更に充実を図る。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係	事業責任者	係長　前田　学

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を行った。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して１歳児から未就学児までの預かりを実施した。
4)正倉院展において、展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を特別協力の新聞社ウェブサイトのリンクを張る形で行った。
5)館内案内リーフレット（７言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して作製した。
6)総合案内に外国語対応できるスタッフを配置し、外国人来館者への応対の充実を図った。

【補足事項】

2)正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中の無料託児所は託児数92名の利用があった。

館内誘導サイン

無料託児室

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数 リーフレット等	49,546台 7言語	－ 7言語	－ B		46,113 7	41,504 7	46,953 7	55,466 7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 快適な観覧環境を図るため音声ガイドの貸出しや多数の来館者がある正倉院展での各種サービスの提供ができた。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 多言語の館内案内リーフレットの配付や外国語対応スタッフの配置による外国人来館者への対応、貸出用の車いすを常備するなど、快適な観覧環境の提供することができ中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(九州国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
4)文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。
5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　楠井隆志 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。
(九州国立博物館)
1)文化交流展示室の鑑賞環境の向上を目的に、文化交流展示室をリニューアルした。
2)文化交流展示を構成する1～5テーマのサインについて全面的な見直しを図り、27年10月18日に設置を完了させた。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
4)展示室内の計5箇所に外国語対応のデジタルサイネージを導入し、海外の来館者の理解を進めた。
5)日本語・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを作成し、配布した。

【補足事項】
1)特別展音声ガイド
・開館10周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」では、77,455人の来館者に対して7,781台の貸出があった（貸出率10.0%）。
・開館10周年記念特別展「大英博物館展－１００のモノが語る世界の歴史－」では、133,174人の来館者に対して22,562台の貸出があった（貸出率16.9%）。
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」では、160,753人の来館者に対して22,208台の貸出があった（貸出率13.8%）。
・開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」では、67,641人の来館者に対して9,608台の貸出があった。（貸出率14.2%）
文化交流展示音声ガイド（3言語対応：英語、中国語、韓国語）
文化交流展示音声ガイド実施状況（貸出件数）
文化交流展示　計8,796台　英語版2,382台　中国語版2,834台　韓国語版3,580台

デジタルサイネージの活用状況

(九州国立博物館)
1)文化交流展示室のリニューアルに伴い、独立ケースの配列を検証し、27年8月末にケース移動を完了させた。また、展示室入口の照明を明るくし、観覧者の快適な観覧環境に配慮した。
4)展示室内にデジタルサイネージを設置し、展示テーマについて日英中韓の4ヵ国語で紹介するサービスを開始した。また、九州国立博物館所蔵の「名品50選」の展示情報を日英2ヵ国語で紹介した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数 リーフレット等	70,955台 7言語	－ 7言語	－ B		56,993 7	114,064 7	55,611 7	67,665 7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	文化交流展示室は26年度より貸出台数が増えており、外国人来館者の展示の理解に役立った。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	来館者のための快適な環境を整備し、中期計画どおりサービス向上を図れた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2321

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
1)タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)を平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。
2)特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」において、会期前に詳細なマニュアルを作成し、対策を講じたうえで期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1)・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。
・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。
2)特別展会場における混雑対応
・特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」では、入場待ちのお客様に少しでも快適にお並びいただけるよう、敷地内への待ち列誘導を9時00分に早め、テントの増設やミストマシン・給水所・パイプ椅子の設置、移動販売の実施、日傘・クロスワードパズルの配布などを行った。また、快適な観覧環境及びお客様の安全を考慮した案内誘導導線を詳細に検討したうえで、常に待ち時間が分かるよう正門のみならずツイッター等でも発信し、お客様各々の待ち列場所に応じた正確な待ち時間を案内できるよう工夫した。
○上野公園と周辺博物館・美術館で開催するイベント「創エネ・あかりパーク2015」に協力し、施設への美術品画像の投影と期間中の開館時間延長を実施した。

創エネ・あかりパークの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
インドの仏―仏教美術の源流　満足度	80%	－	－	経年変化	－	－	－	－
鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―　満足度	67%	－	－		－	－	－	－
クレオパトラとエジプトの王妃展　満足度	67%	－	－		－	－	－	－
アート オブ ブルガリ　満足度	85%	－	－		－	－	－	－
始皇帝と大兵馬俑　満足度	78%	－	－		－	－	－	－
総合文化展　満足度	82%	－	－		65%	70%	78%	77%

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケートの結果等を元に環境改善に努めたこともあり、総合文化展満足度は、平成23年度以降で最高となった。また、特別展についても、満足度が80%を超えるものが複数見られた。ただ、混雑した特別展では満足度が下がったため、引き続き、混雑対策の検討が必要である。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通じ、混雑した特別展において各種の対策を講じて利用者に配慮した運営を行った。また、外国人をはじめとする一般来館者の意見については聴取できているため、それを基に今後改善を行う。混雑時の観覧環境の向上対策も、引き続き進める。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館)
1)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】(4館共通)
1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。
2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。
(京都国立博物館)
1)小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び外国人招致活動用務に携わっている方、近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。

【補足事項】(4館共通)
1)・来館者アンケートに休憩用椅子を増やしてほしいという要望が多かったため、平成知新館内に休憩用の椅子を増設し、お客様の休憩場所の確保に努めた。
・来館者アンケートにおいて写真撮影の希望が多く寄せられるが、展示室内では撮影禁止のため、平成知新館前に看板を造作し、来館者が記念撮影を行えるように配慮した。
2)・明治古都館内及び平成知新館、庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機、観光客の旅行用大型バッグ（カート）の収納が可能な大型コインロッカー及び傘立ての増設も行った。
・特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等に掲載した。
・「琳派　京を彩る」展会期中は、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行った。また、章解説やキャプションのための立体のパネルを造作し、配置を工夫することで、観覧者の滞留緩和を図った。

入場待ちのお客様のためのテント（「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」会期中）

(京都国立博物館)
1)・名品ギャラリー展示室一部閉室時の状況が分かりにくいとの提言があったので、チケット売場料金表の横に図面を表示し、チケット購入前に開室状況が分かるようにした。
○職員等への防災・接遇研修等
・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。
・開館中の火災を想定した総合防災訓練を実施し、来館者の避難誘導訓練や初期消火訓練を行った

総合防災訓練風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち　満足度	94%	－	－		－	－	－	－
仏法東漸　―仏教の典籍と美術―　満足度	83%	－	－		－	－	－	－
琳派　京（みやこ）を彩る　満足度	84%	－	－		－	－	－	－
平常展　満足度	83%	－	－		－	－	－	74%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展覧会では混雑状況に応じて入場制限を行い、待ち時間をウェブサイト等で掲載するなど、利用者に配慮した運営を実現すべく、施策を着実に実施した。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	来館者へのアンケートや専門家による批評、モニターからの提言などの取り組みを継続的に行い、博物館運営に活かすよう努めた。

【書式Ａ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係 学芸部情報サービス室	事業責任者	係長　前田　学 室長　岩井共二

【実績・成果】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持につとめた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)今年度も専門家による展覧会評の掲載を検討したが、開館120年記念に関連した当館職員による事業紹介を優先した結果、今年度については展覧会評を掲載することができなかった。

【補足事項】(4館共通)
1)アンケートなどの意見を反映して下記の改善を行った。
・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃、エントランスマット清掃を業者委託により実施した。
・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置し、混雑状況の中でもトイレ利用案内、ミュージアムショップやレストランへの誘導が図れた。
・正倉院展の会期中、館内やトイレの見回り頻度を増やすことにより、ゴミや汚れの発見を早めることで快適な環境の保持につとめた。
・ウェブサイトから寄せられたご意見等の質問に対し迅速に対応した。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、実際の混雑に対して工夫等を行った。
・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテント設置、待ち列があるピロティに設置したモニターによる展示案内や館内注意事項の映像を流した。また、館内の混雑調整のための入場制限や入場待ち列の混雑緩和のため案内誘導を行った。
・正倉院展では、過去の同展よりもコインロッカー等を増設することで手荷物預かり数を増やし、観覧しやすい環境の確保に努めた。
・正倉院展では、混雑状況（待ち時間）の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅、ＪＲ奈良駅及び読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して行った。

コインロッカー

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平安古経展　満足度	84%	－	－		－	－	－	－
白鳳―花ひらく仏教美術―　満足度	85%	－	－		－	－	－	－
第６７回正倉院展　満足度	69%	－	－		73%	77%	70%	69%
名品展　満足度	78%	－	－		74%	79%	84%	81%

【年度計画に対する総合評価】 評定：　C	【判定根拠、課題と対応】 年度計画の展覧会評の広報誌掲載については開館120周年記念に関連した当館職員による事業紹介を優先したため実施できなかった。一方、来館者アンケートを実施しその結果をもとに改善を実施したこと、また混雑が予想される展覧会での各種対策により快適な観覧環境を維持できた。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートを実施して改善すべきところを把握し反映につとめた。また中期計画期間中に毎年度開催した正倉院展では特に混雑する展覧会であるため、過去の展覧会の事例等から注意点を把握し、その対策を講じることで混雑時に適切な対応が行えた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部　勝

【実績・成果】
1) 来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示室及び各特別展で来館者調査を実施した。
2) 混雑が予想される展覧会（開館10周年記念特別展「美の国　日本」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1) 管理運営の改善ためアンケート結果を関係各課と共有し、改善に向けて活かした。
・平常展アンケート 満足度 72 %　回答数316件
（「とてもよい」 44 %、「よい」 28 %、「ふつう」 9 %、「あまりよくない」 3%、「よくない」 2%、「無回答」 14 %）

2) 混雑が予想された開館10周年記念特別展「美の国　日本」では、以下の対応を行った。
・ハローダイヤル、日本道路交通情報センターなど関係各所にFAXを送信し、混雑状況の周知を図った。
・主催事務局において、開館10周年記念特別展「美の国　日本」 公式ウェブサイト、「Facebook」にて待ち時間を発信した。
○太宰府消防署の協力により、地域と連携した火災訓練を実施した。
○筑紫野警察署の協力により、不審者対応の巡回を実施してもらった。

特別展「美の国　日本」の状況

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－満足度	88%	－	－	経年変化	－	－	－	－
大英博物館展　満足度	81%	－	－		－	－	－	－
美の国 日本　満足度	89%	－	－		－	－	－	－
アフガニスタン美術展　満足度	94%	－	－		－	－	－	－
文化交流展　満足度	72%	－	－		65%	70%	65%	62%

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果は概ね好評を得た。また、管理運営のためのアンケート結果を改善に向けて活かした。外部からの要望意見聴取等をまとめという形で発行した。なお、混雑が予想された開館10周年記念特別展 「美の国　日本」については、関係各所と打ち合わせを行い、情報収集し、その情報を基に混雑対策を講じることができた。その結果、入場の待ち時間はあったが、混乱なく入場案内ができた。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 管理運営のためのアンケート結果を関係各課で改善に向けて活かしている。また、外部委員の意見のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。以上のとおり、中期計画に沿って運営を実施した。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(東京国立博物館)
1)特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)考古展示室のリニューアルオープンにあわせ、オリジナルグッズとして、ペーパークラフトを発売した。

(東京国立博物館)
1)26年度に試行的に実施していた屋外のケータリングカーを特別展期間中常設にした。

【補足事項】
(4館共通)
1)ペーパークラフトはデザイン性にも優れ、グッドデザイン賞を受賞することができた。
2)風月堂とコラボしたオリジナル商品（お菓子）やオリジナルのマスキングテープを新たに開発するなど、低価格帯の商品の更なる充実を図った。
3)ケータリングカーを特別展期間中に常設することによって、来館者から要望が多かった軽食を提供するのみならず、27年度よりその場で気軽に飲食ができるようにケータリングカー周辺の屋外に椅子・テーブルを設置しサービスを向上させた。

ペーパークラフト紙宝シリーズ「埴輪　馬」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 オリジナルグッズの開発や来館者への軽食サービス提供など徐々にではあるが、改善されてきている。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 来館者からの意見を踏まえて軽食を増やしたり、低価格のグッズを開発するなど継続的に努力し中期計画通り改善を重ねた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。
2)平成知新館に新たなレストランを設け、更なる利用者サービス向上を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示することで、接客サービスの向上に努めた。
2)平成知新館に新たに設けられたレストランを活用し、更なる利用者サービスの向上を図った。

【補足事項】
・南門施設には、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。
・明治古都館（特別展示館）の休館に伴い、特別展覧会前後に全館休館期間が生じたが、この期間も、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。
・プロジェクションマッピングやイルミネーション実施期間中等、当館の開館時間を延長する際には、平成知新館内及び南門施設内のミュージアムショップ、レストランなどと連携し、営業時間の延長を行った。
・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ掲示や、英会話のできる人員の配置など、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。
・当館オリジナルグッズ（クリップ、立体カード、ジグソーパズル等）を引き続き販売した。
・ミュージアムショップにおいては、当館で開催中の展示や、干支に関連するグッズ等、日本美術を中心とした様々なグッズを販売した。
・27年度に新たに誕生した公式キャラクター「トラりん」に関連した文化財保護基金グッズを新たに製作、販売した。
・公式キャラクター「トラりん」の着ぐるみを製作し、土、日、祝日を中心に登場させた。来館者からの認知度を高め、関連グッズ等の販売促進につなげることができた。

庭園に登場したトラりん

トラりんてぬぐい

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 館内ミュージアムショップやレストランと連携を密にし、また新たなグッズの製作や販売を行うなど、更なる利用者サービスの向上に努めた。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 レストランのサービス等について利用者にアンケート調査を行い、結果を外部委託業者に報告して、接客サービスの向上に中期計画どおり努めた。

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(奈良国立博物館)
1)アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
2)ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係	事業責任者	係長　前田　学

【実績・成果】
(4館共通)
1)オリジナルグッズの商品をミュージアムショップで販売しサービス向上に努めた。
(奈良国立博物館)
1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配付した。
　・28年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のオリジナルステッカーを配付した。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。

【補足事項】

(4館共通)
1)堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」のマーキングクリップや正倉院展模様のブックカバー、特別展出陳作品をプリントしたクリアファイルや一筆箋等のオリジナルグッズをミュージアムショップで販売した。

元気が出る仏像シリーズ
「マーキングクリップ」

正倉院展ブックカバー

一筆箋

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ノベルティグッズを作成して来館者に配付を行ったり、ミュージアムショップでのオリジナルグッズの販売をしたりすることにより、来館の付加価値を付けることで来館者へのサービスや満足度の向上に努めた。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見を収集しサービス向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。
2)九州国立博物館開館10周年記念貨幣が発行されることに伴い、ミュージアムショップや券売所での引換えや釣銭としての活用など、サービスの向上に努める。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1) ○27年7月に当館ミュージアムショップをリニューアルオープンした。館外にアンテナショップを新設した。
・オリジナルグッズの開発や特別展・文化交流展の展覧内容に即した商品、地場産業の商品を提供した。
(九州国立博物館)
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。
2)27年7月に九州国立博物館開館10周年記念貨幣を発行した。ミュージアムショップや券売所等で引換えや釣銭として利用した。

【補足事項】
(4館共通)
1)・27年7月1日、ミュージアムショップをリニューアルオープンさせた。オリジナル商品の開発や情報発信（図録や書籍等）の充実を図った。
・27年7月20日、太宰府天満宮参道にアンテナショップとして「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」を新設。博物館の情報発信とミュージアムグッズを提供した。
・オリジナルグッズは、館と事業者が共同して開発した。

ミュージアムショップリニューアル

「ミュージアムショップ参道」オープニング

アフタヌーンティセット

(九州国立博物館)
1)　レストランでは、特別展に関連したメニューを提供した。
・開館10周年記念特別展「戦国大名」では、九州の武将にちなみ九州地方の名物を詰め込んだ「松花堂弁当」等を提供。
・開館10周年記念特別展「大英博物館展」では、イギリス仕様の「アフタヌーンティセット」をレストラン及び期間限定のブックカフェで提供。
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」では、日本の美食の秋の食材を詰め込んだ「プレミアム松花堂弁当」等を提供。
・開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」では、「シルクロード」の文化がヨーロッパから西アジア、中国を経て日本へと伝わる流れをイメージした「シルクロード風鍋」等を提供。

記念貨幣

2)　27年7月の九州国立博物館開館10周年記念貨幣の発行
2万枚をミュージアムショップや券売所等で引換えや釣銭として利用した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	館外に常設のミュージアムショップを新設し、情報発信基地として利用者サービスの向上に大きく寄与することができた。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ショップのリニューアル、館外ミュージアムショップの開設、館と事業者が共同したオリジナルグッズの開発やメニューの提供など、初期の中期計画の目標以上に利用者サービスの向上に寄与している。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2411

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
（東京国立博物館）
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
3)収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。
4)法隆寺献納宝物について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて実施するとともに、システムの更新について検討する。
5)ガラス乾板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】(4館共通）1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。
2)国宝・重要文化財の高精細画像（e国宝）を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。
3)通常博物館で使用する形態の既存フィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、27年度新規フィルムおよび未登録となっていた、カラーフィルム480枚、モノクロフィルム4枚をデジタル化した。
（東京国立博物館）
1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、機能追加とともにオンライン・ヘルプを改訂した。また、データを題箋として印刷するための機能を改善した。
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。
3)収蔵する和古書・漢籍について13,924カット、洋古書について16,089カットのデジタル撮影を行った。また26年度までに撮影したものと合わせ、データ整備が完了したものから随時公開した。
4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」について、27年4月27日から5月19日まで公開した。また現在のシステムが老朽化していることから、更新について検討した。
5)未整理のブローニーフィルムについて調査の上デジタル化した。また未整理のスライドの一部について試行的にデータの整備を行った。

【補足事項】(4館共通）
2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。
・iOSアプリ549,902件（23年1月20日リリース）参考：26年度末時点512,034件
・Androidアプリ184,456件（25年2月6日リリース）参考：26年度末時点173,877件
（東京国立博物館）
3)和古書・洋古書および漢籍のデジタル画像を公開する「東京国立博物館デジタルライブラリー」において、588件995冊分の画像を公開している。

デジタルライブラリー画面

4)法隆寺宝物館2階資料室は、平成館工事に伴い26年12月から27年4月まで休憩室としていたため、工事終了後の27年4月27日からの公開となっている。また法隆寺宝物館自体も27年5月20日から28年3月14日まで環境整備工事を行ったため、5月19日までの公開となっている。28年3月14日以降については、老朽化したシステムの運用管理の継続が困難であることから再度の公開は行なわないこととした。
○本館19室において、「e国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐろう」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ継続して公開した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	484件	－	－		1,468	776	550,305	79
うちカラーフィルム	480件	－	－		1,392	715	304	41
うちモノクロフィルム	4件	－	－		76	61	1	38
うちマイクロフィルム	－	－	－		－	－	550,000	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像の公開、データベース開発やデータ整備等は順調である。スライド等の未整理フィルムについて、デジタル化やデータ整備の方法を引き続き検討が必要である。和古書・洋古書のデジタル化件数、およびこれらを公開するデジタルライブラリーの公開件数はいずれも順調に増加している。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 既存フィルムのデジタル化はほぼ完了させ、その他のデータ整備や和古書・洋古書デジタル化を進めた。また来館者向けシステムや、インターネット公開のためのシステムを継続的に運用し、公開件数も増加した。以上の通り、中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2412

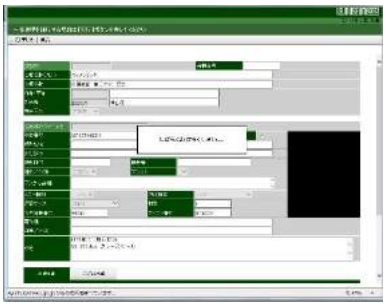
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(京都国立博物館)
1)収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について6言語（日、英、中、韓、仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(新規登録件数：26,140件) また、ウェブサイトにて公開する館蔵品データの登録及び更新を随時行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を伏したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)・収蔵品写真等の既存フィルム等のデジタル化を継続し、5,966件実施した。
・フィルム用スキャナを継続して運用し、既存フィルムのデジタル化を行った。(4,514枚)
・継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、27年度は90リール（57,805コマ）のデジタル化を行った。
・継続してガラス乾板のデジタル化を行っており、27年度は1,362枚デジタル化を行った。
(京都国国立博物館)
1)・京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。
（中期計画記載事項）
館蔵品データベースの27年度公開データは99件増加した。

【補足事項】
(4館共通)
1) 文化財情報システムのシステム改善により一括登録が可能になったため、コマ数が多いマイクロフィルムの登録を開始し、大幅に登録件数が増えた。
3)・引き続き外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、費用削減を図りながら、フィルムのデジタル化を促進した。
・自己収入予算の重点配分により、館内では実施不可な8×10、及び5×7フィルムのスキャニングを外注することができた。
・ガラス乾板は、京都造形芸術大学の協力の下、保存整理作業も続けて行っており、27年度はキャビネサイズを中心に状態調査を行い、スキャニング作業は26年から引き続きキャビネ・四つ切サイズを中心に行った。


文化財情報システム
一括登録画面

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	5,966件	2,000件	A		2,165	2,732	2,682	5,536

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	改善された文化財情報システムを使い、新規登録数の大幅な増加につなげた。既存フィルムのデジタル化を積極的に行い、収蔵品のデジタル化を当初の想定以上に推進することができた。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画を通じ、デジタル化を進めるとともに、ウェブサイトにて館蔵品の公開データを継続的に増加させることができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2413

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(奈良国立博物館)
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
4)仏教美術情報の公開・普及を図る。
5)「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（４館共通）
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースのインターネット公開を継続した。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（3,875件)。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を行い、関連データを整備した(4,237件)。
2)画像データベースの個別データを追加更新した（7,462件)。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。
4)仏教美術情報の公開・普及を図るため、仏教美術資料研究センターならびに関連データベースの公開を継続した。
5)「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続した。

【補足事項】
1)デジタル化を進めている館蔵ガラス乾板についてデータベースを新規に作成し、館内で閲覧可能な環境を整えた。これは「日本美術院彫刻等修理記録」に続いて館内のガラス乾板の保存活用を実現する事業の一つである。ガラス乾板のデジタル化は、ガラス乾板の原板の整理、すなわち目録データの作成、保存処理（カビや埃の除去)、畳紙・保存箱への納入、26 年度末に導入したガラス乾板専用の保存棚への排架と連動したもので、原板の保存活用とデジタル化の促進がともに達成されつつあるという点で意義深いものである。今後も最新のデジタル撮影と同時に、近代資料の保存活用にも取り組んでいく所存である。

ガラス乾板データベース

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	3,875件	3,000件	A		5,297	4,924	7,615	5,154
写真データベースの個別データ追加更新件数	7,462件	2,000件	A		4,370	13,402	9,093	5,447

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	目標値を上まわる数値となっており、継続的な蓄積が達成されている。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、情報の共有についても新たな試みを実施しており、機能・サービスの強化することができ、中期計画を大きく上回って成果があった。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2414

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(九州国立博物館)
1)収蔵品に関する基本情報を整備して、公開活用に向けた情報整備を推進する。
2)対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。
3)海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課	事業責任者	課長　冨坂　賢 課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
（４館共通）
1)「収蔵品ギャラリー」を整備し、継続して収蔵品情報を発信した。28年度のリニューアルに向けての検討を行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。
3)既存フィルムのデジタル化は完了している。なお、27年度は新規フィルムの撮影がなかった。
(九州国立博物館)
1)収蔵品の公開活用の基盤となる館内データベースシステムを新規に構築し、公開情報・公開項目の選定を進めた。
2)対馬宗家文書データベースを見直し、より効率的な運用体制を構築した。装飾古墳データベースの公開を継続し、「電子国土功績賞2015」を受賞した。郷土人形データベースを新たに公開した。
3)月例の学芸会議の中で、研究会という形で研究活動や様々な事業活動の発表を定例化し、整備にむけての足がかりとした。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)　27年度から稼働した「文化財情報システム」は、収蔵品の公開・非公開の設定や公開する情報の編集・管理を一元的に行うことができる構造を持つ。これに伴い、「収蔵品ギャラリー」をコンテンツ、ユーザインタフェースの両面から見直しを行い28年度にリニューアルする予定である。
2)　郷土人形データベースは、ボランティア資料部会を中心に、以前から進めている故秋吉元氏寄贈の郷土人形コレクションについて、画像と作品データを検索・一覧できるデータベースである。以前より、仮サーバ上にてデータの蓄積を進めてきたが、27年度からウェブサイト上で公開し、資料整理の成果を広く公表することとした。

郷土人形データベース
トップページ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	－ （完了済）	－	－		2,146	1,450	62	776

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 対馬宗家文書DB、装飾古墳DB、収蔵品ギャラリーの運用・公開を26年度同様に実施した。収蔵品データベースを公開するための基盤となるシステムを構築した。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新たに郷土人形DBの運用を開始することで公開される情報量を増加させた。また、ウェブサイトと連動した情報公開の基盤を構築するなど、中期計画どおりにシステムの充実を図った。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2421

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）　文化財情報の発信と広報の充実 ②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約15,000件　（東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
(東京国立博物館)
1)調査・研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
2)博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
3)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。
4)法隆寺宝物館において、観覧者向け情報コーナーサービスを継続実施する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】
(4館共通)
1)　本年度は6,947件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
(東京国立博物館)
1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、10,285件の図書および逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像管理システムに画像データ12,513件を登録し、既存データ1,725件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。
・図書館振興財団の助成によりシーボルト旧蔵本の修理・保管箱作成（85冊）、デジタル撮影（65冊　33,911カットを行い、「シーボルト旧蔵本」デジタル・アーカイブに登録した。別途洋書27冊、漢籍51冊のデジタル撮影を行った。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。（入館者 5,936人）
2)・『Museum』や特別展図録など約200点の当館刊行物について、収載されている当館の所蔵品の列品番号を調査し、図書館システムの該当資料にその情報を入力した。
・埋蔵文化財発掘調査報告書約1,500冊、展覧会カタログ約500冊の書誌データを整備した。また26年度と併せて約960件の売立目録の書誌データを、NCのルールに準拠して整備し、NCに所蔵を登録した。
・所蔵する和雑誌の所蔵情報を点検し、1,993タイトルについてNCに所蔵登録を行い、CiNiiでの検索を可能とした。
3)・展覧会カタログ用書庫に総段数　518段の書架を設置し、カタログを含めた図書約2,200段分の再配置を11日間、3回に分けて実施した。
4)・法隆寺宝物館全館改修工事のため3月までサービスを停止した。また、停止中に検討を行い、情報コーナーサービスを廃止することとした。なお、法隆寺宝物館の図書は、資料館閲覧室に移設し、サービスを継続することを検討している。

整理・配架した書庫内の雑誌書架

【補足事項】
1)・図書資料収集・整理の内訳は、新規図書 6,826冊、既存図書の遡及入力993冊、逐次刊行物の受入3,592冊である。
2)・4回の特別展について展覧会の関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場で関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース（OPAC）に記事を掲載し資料館からの情報発信に努めた。
3)・資料館の入館経路や入口をわかりやすくするため、入館者向けサインの変更、新設を行った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	12,513件	8,000件程度	A		10,566	9,556	9,865	10,720
うちフィルム撮影	1,479件	－	－		1,379	1,063	22	22
うちデジタル撮影	11,034件	－	－		9,187	8,493	9,843	10,643
新規図書整理	6,826件	－	－		3,970	4,877	4,989	6,849
遡及図書整理	998件	－	－		5,459	13,693	3,505	1,266

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	新規撮影や関連データ整備を滞りなく行うことができた。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	新規撮影や関連データ整備とともに、図書整理を滞りなく行った。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2422

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約15,000件　(東京：8,000、　京都：3,000、　奈良：3,000、　九州：1,000) の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(京都国立博物館)

1)資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

2)デジタルサイネージや情報閲覧システム、無線LAN等の情報処理技術を活用し、来館者に対する効果的な情報発信を図る。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】

(4館共通)

1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,294枚行った。
　・27年度システムの改善を行ったため、過年度のデジタル撮影2,928枚を遡って登録を行うことができた。
　・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書3,856冊、逐次刊行物1,599冊を収集した。

(京都国立博物館)

1)・文化財情報システムにて画像管理、検索性を向上させるため、入力や検索等の各種プログラム改修を行った。
　・増大するデジタル撮影データを安全に管理するため、バックアップ仕様の改善やストレージ（大容量記憶装置）のデータ移行等を行った。

2)平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ、館蔵品の画像や解説を来館者の閲覧に供した。また、展示情報系LANにより1階エントランスホール及び各階展示前室のデジタルサイネージを結び、展示情報や出品作品の画像イメージを表示させるなどして、来館者にとって分かりやすい情報発信を図った。

【補足事項】

1)　・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会　「琳派　京を彩る」(27年10月10日～11月23日)、また特別展覧会「禅　心をかたちに」(28年4月12日～5月22日)を対象として進めた。
　・特集陳列・特別展観について、チラシ・リーフレット作成のため、作品の撮影を行った。
　・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。

デジタル撮影風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	8,222件	3,000件	A		3,580	2,713	4,525	4,927
うちフィルム撮影	0件	－	－		3,410	2,168	1,406	557
うちデジタル撮影	5,294件	－	－		170	545	3,119	4,370
過年度分の登録	2,928件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規撮影、図書資料の収集を滞りなく実施することができた。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規図書等による基礎資料の収集を進め、平成知新館のレファレンスコーナーやデジタルサイネージの活用により、中期計画どおり順調に充実させることができた。

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 2423

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ② 博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約15,000件 （東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
(奈良国立博物館)
1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。
2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した（4,237件)。
(奈良国立博物館)
1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図った。
2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を順次見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施した。

【補足事項】
1)収蔵品ならびに画像データベースの内容を充実すべく、画像・テキスト情報を逐次更新しているが、このたび情報公開をさらに促進させて利用者へのサービスを拡充するために、28年3月から収蔵品画像データの無償ダウンロードのサービスを開始した。画像データの利用者提供については、収蔵品その他全ての画像について、特別観覧の手続きを経てDVDに焼き付けたものを郵送することで対応している。今回はインターネットで公開する収蔵品・画像データベースで表示される収蔵品の画像データについて、利用者が自身でダウンロード可能なように、システムを改修することで対応するものとした。無償ダウンロード可能な画像は、長辺4,000ピクセルの高解像度のもので、学術・教育目的のものであれば、課金無しで利用可能とする。これにより、博物館が蓄積している高品質の情報を社会に還元する方法がさらに充実し、サービス向上に資するものとなる。

無償ダウンロード機能を追加した
収蔵品データベース

・独立行政法人国立美術館が主催する、JALプロジェクト2015「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業2015」へ26年に引き続き協力し、7ヵ国9名の研修生（大学ならびに美術館の図書館司書を中心とする）を受け入れ、研修ならびに見学会を実施した。海外の日本美術資料専門家に対して仏教美術資料研究センターの活動内容や奈良国立博物館が作成する各種データベースを紹介する貴重な機会となり、質疑応答や情報交換がなされた。特に収蔵品ならびに画像データベースに強い関心が寄せられ、今後の情報の蓄積や広報に参考となる意見が得られた。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,237件	3,000件	A		6,103	4,960	4,648	5,478
うちフィルム撮影	5件	－	－		219	14	87	7
うちデジタル撮影	4,232件	－	－		5,884	4,944	4,561	5,471

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 目標値を上まわる数値となっており、継続的な情報蓄積が達成されている。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対し、目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、収蔵品画像データの無償ダウンロード開始をはじめとする新規事業や、研修並びに見学会を通じた他館との人的交流を実施するなど、活動をより充実させた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2424

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約15,000件 （東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
（九州国立博物館）
1)蔵書管理システム及び画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供することを図る。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
(4館共通)
1) 1,090件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
（九州国立博物館）
1)26年度導入した日本事務器製ネオシリウス（蔵書管理システム） において、内蔵データ整備を行った。27年度より日本写真印刷コミュニケーションズ製文化財情報システムの一部として画像管理システムの運用を開始した。

【補足事項】
(4館共通)
1) 収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となっており、そうした流れに対応した整備を行った。

専任撮影技師による宗家文書撮影①

専任撮影技師による宗家文書撮影②

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	1,090件	1,000件	B		4,441	2,142	1,512	1,167
うちフィルム撮影	0件	－	－		2,175	1,480	822	4
うちデジタル撮影	1,090件	－	－		2,266	662	690	1,163

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新規撮影件数及び関連データ整備の目標値は達成した。画像管理システムを収蔵品管理システムと連動させることで、利用者のアクセシビリティを向上・管理の効率化を実現することができた。 蔵書データベースの整備については、27年度から3ヵ年をかけて館内及び館外（保管業務委託）蔵書を整備する事業に着手した。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 撮影件数は業務上の事情により左右される部分もあるが、中期計画の目標値は順調に達成している。今後は専任の撮影技師による撮影から画像の利用までの効率的なフローの構築を目指す。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2431

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館)
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館でアジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。
3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)や、総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語8種)、「展示・催し物のご案内」を作成、配布した。
2)「博物館でアジアの旅」、「秋の特別公開」、「博物館に初もうで」、「平成館考古展示室リニューアル」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。
3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを10月まで作成し、配布した。「トーハクなび」の「今日のオススメ」作品の配信開始に伴い、『東京国立博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、パンフレット「日本美術の流れ　今日のオススメ」として作成し、配布した。

【補足事項】
2)・『東京国立博物ニュース』では、総合文化展のページを増やし、きめ細かい情報発信に努めた。
・「博物館でアジアの旅」「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日、日経新聞への広告を出広した。

『東京国立博物館ニュース』728号

「博物館に初もうで」毎日新聞掲載広告

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	スケジュールや案内は当初計画した形での広報物作成と配布が実施できた。また各企画において印刷物を作成し効果的な広報が展開できた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	より一般来館者の関心を惹き、かつ外国人や若年層など、今後来館の幅を広げうる層にも訴求するような印刷物及び広報展開を中期計画通りに実施できている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2432

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
1)広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
1)特別展覧会「琳派　京を彩る」、「禅　心をかたちに」の開催に向けて、事前記者発表を東京で行った。
1)特集陳列「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」の開催にあわせ、広報用ポスター・チラシの企画・製作・配布等を行った。
○特集陳列「刀剣を楽しむ」の開催にあわせ、オンラインゲーム「刀剣乱舞」版特別音声ガイドを企画・制作し、新たな来館者層の開拓に寄与した。
○ＪＲ東海と連携し、「京の冬の旅」にあわせ特集陳列「皇室ゆかりの名宝」を実施し、冬季の集客増加に努めた。
○ＪＲ京都伊勢丹と連携し、トークイベントやスタンプラリーを行い、幅広い情報発信に努めた。
2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。

【補足事項】
1)27年4月～28年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した（40,000部）。
1)展覧会のジャンルにあわせてチラシ等発送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。
○報道各社等に紙媒体のリリース以外に、電子メールで随時プレスリリースを配信した。
・近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。
・「Twitter」を利用し、展覧会の混雑情報やイベントなどの迅速な情報発信に努めた。
・一般社団法人京都府タクシー協会などの構成員に対して特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。
2)博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の井浦新氏を任命した。

年間スケジュール
(27年4月～28年3月)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 26年度の東京での記者発表の成果をふまえ、27年度も東京での記者発表を開催し、幅広いメディアへの広報に努めた。また報道関係以外の他業種との連携を進め、多角的な広報活動を展開した。年間スケジュールや展覧会ポスター・チラシ、メールマガジン・ツイッターなど各広報媒体を幅広く効果的に活用し、引き続き積極的な発信を行うこととする。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にしたがって、年間スケジュールや展覧会ポスター・チラシ、メールマガジン・ツイッターなどの広報媒体を効果的に活用し、継続した発信を着実に行い、東京での記者発表を実施するなどした。今後も、引き続き積極的な発信を行うこととする。

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 2433

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)タクシーやホテル等利用者への広報図るため、関係業界に対し特別展の説明会・内覧会を実施する。
3)地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。
4)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
5)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
6)写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。
7)奈良の寺社とのスタンプラリー、無料チラシの配布など広報協力を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)27年5月～28年5月の展覧会日程を記載した年間スケジュール　リーフレットを作成し、配布した。
(奈良国立博物館)
1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。
2)特別展では、タクシー･ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー･ホテル等の利用者への広報活動を行った。
3)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。
4)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
5)笑い飯哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、広報活動の一環として27年8月12日に「奈良国立博物館文化大使　笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」を開催し、149名の参加があった。
6)笑い飯哲夫・文化大使のメディア出演やツイッター等により当館や展覧会の広報活動を行った。
7)特別展「白鳳」では当館と展示内容にゆかりの深い３箇寺を巡るスタンプラリーを実施し、特別陳列「おん祭」及び「お水取り」では寺社の参拝客へ無料チラシ配布し、近隣寺社と広報活動に努めた。

【補足事項】
3)・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。
・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。

年間スケジュール　リーフレット

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣商店街や近隣寺社など地域と連携して博物館の情報を発信することができた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり個々の企画の目的、内容等を踏まえた各種広報活動を計画的に実施することができた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2434

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(九州国立博物館)
1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
4)九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(50,000部)
(九州国立博物館)
1)特別展のポスター、ちらしなどの対象者や地域を考慮した広報・宣伝材料を制作し、情報発信に努めた。
2)過去の特別展やトピック展示などの情報を整備した。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
4)九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開した。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用のほか、ＰＲ映像や「プロジェクションマッピング」を実施した。

【補足事項】
3)・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。
・商業施設（ＪＲ博多シティ）と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。
4)・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。
・九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。
・旅行代理店やクルーズ客船の担当等を九博に呼び、九博の広報・営業を行った。
5)・文化交流展示室のＰＲ映像を作成し、テレビＣＭの放送や街頭スクリーンでの上映を行った。(イメージ図：左)
・アクセストンネル（「虹のトンネル」）において、人の影や動きに反応して文化交流展示室の展示物が映し出される参加型の「プロジェクションマッピング」を実施した。(開館10周年記念事業)

文化交流展のテレビＣＭの一コマ

アクセストンネルのプロジェクションマッピングの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ポスター・ちらしなどの制作や活用を行うほか、27年度はＰＲ映像の作成と公開などの新たな取組みも行い、来館者増に努めた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、広報を実施することができた。特に27年度においては、地域・年齢層などのターゲティングを行った上で情報発信を行うことができた。

【書式Ａ】　　施設名 本部事務局　　処理番号 2430

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(機構本部)
1)機構の概要、年報を作成する。
2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
(機構本部)
1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成27年度』(日本語版・英語版) を27年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成26年度』を28年2月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。

【補足事項】
1)『独立行政法人国立文化財機構概要』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。(日本語版：2,100 部、英語版カラー600 部。いずれもカラー25 ページ)
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成 26 年度』: 216 部、カラー4 ページ・モノクロ 1304 ページ。
2)機構本部ウェブサイトアクセス件数：292,721件

『独立行政法人国立文化財機構
概要 平成27年度』
(日本語版・英語版)

『独立行政法人国立文化財機構
年報 平成26年度』

独立行政法人国立文化財機構
ウェブサイトトップページ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り、概要・年報を作成した。また、機構本部ウェブサイトの運用を行い、法人情報の提供を行った。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企業の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概要と年報の作成と、ウェブサイトの運用による個人情報の提供を継続して行い、中期計画を順調に遂行した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2441

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回)
2)ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
3)SNS（ツイッター、フェイスブック）による情報発信を継続して行う。
4)主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　伊藤信二

【実績・成果】(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(16回)
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回)
2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数67回)
・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。
3) スマートフォン対応を目的としたモバイルサイト（26年度リリース）により、広範な情報発信を行なった。
・25年7月より開始したSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を継続し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。
4)新聞雑誌各紙の美術・文化担当記者らを対象とした記者懇談会第3回を実施した(27年10月5日)。

【補足事項】
(4館共通)
1)単行本『探検！東京国立博物館』(藤森照信・山口晃著　淡交社　27年11月）の刊行にに協力し、140年を超える歴史と蓄積された文化財の質の高さに裏打ちされた東京国立博物館の品格を十分にアピールできた。
(東京国立博物館)
2)・「1089ブログ」では、研究員はもとより、館内の様々な部署の職員が、展示・催し、その他館の活動に関する情報発信に関わった。
3)・「Twitter」フォロワー34,243件、(26年度11,388件)「Facebook」いいね！10,331件（26年度6,823件）を獲得し、26年度より着実に数を伸ばしている。
4)・平成館考古展示室リニューアルオープンに先立って実施した第3回記者懇談会では、前回の３倍にあたる計58名の記者の出席を得て盛況であった。

『探検！東京国立博物館』

第３回記者懇談会
(平成館考古展示室)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『東京国立博物館ニュース』発行	6回	6回	B		6	7	6	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 当館の広報に資する単行本刊行への対応、ウェブサイトの充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通りスマートフォン用サイトやSNS運営などの実施により、一般およびメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2442

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(京都国立博物館)1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文) の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
3)京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
4)博物館ディクショナリーを毎月発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
1)各展覧会の招待日のプレス発表とは別に、東京でのプレス発表会を開催し、展覧会の周知に努めた。また、随時プレスリリースを作成・送付し、マスコミ媒体への周知に努めた。
2)ウェブサイト（日・英）による情報提供を行った
3)メールマガジン（日のみ）による情報提供を行った。
1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年4回) を発行・配布した。
・各特集陳列のリーフレットを発行・配布した。
2)京都府・京都市と連携し、琳派400年記念にちなんだイベントの開催や情報発信に努めた。
3)京都市内4館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館）の連携協力の提携を結び、琳派400年記念にちなんだ展覧会の情報を盛り込んだチラシ・パンフレットを発行・配布した。
4)博物館Dictionaryを発行し、新刊をメールマガジンにて配信、来館者への興味喚起に努めた。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。
○大阪府警機関紙『なにわ』に、年間を通して館蔵の名品を紹介した。
○雑誌『日経おとなのＯＦＦ』、『和楽』、『婦人画報』、『家庭画報』をはじめ、多くの雑誌・書籍に琳派展の記事が掲載され、新たな来館者層の開拓に寄与した。
○ＢＳ日本テレビ「ぶらぶら美術・博物館」(27年11月13日放送)、ＮＨＫＢＳプレミアム「風神雷神図を描いた男　天才絵師・俵屋宗達の招待」(27年10月31日放送) など、複数のテレビ番組での琳派展紹介に協力し、新たな来館者層の開拓に寄与した。

【補足事項】
・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ1万部から3万部発行（季節による来館者見込みにより増減）し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。
・琳派展を特集した『京都国立博物館だより188号』については、大幅な来館者数の増加に対応して増刷、合計8万部を配布し、来館者サービス充実に努めた。
・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として年4回発行。現在127号に達しすでに4半世紀を超えた刊行物であり、外国人観光客や留学生らの好評を博している。
・特集陳列のポスター・チラシ・リーフレットを作成し、広報及び来館者サービスの充実に努めた。

日経おとなのＯＦＦ10月号

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『京都国立博物館だより』発行	4回	4回	B		4	4	4	4
『Newsletter』発行	4回	4回	B		4	4	3	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】『京都国立博物館だより』はより読みやすく読者に興味を持ってもらえるよう、コラムや年表など、より一層記事内容の充実を図った。また、琳派展への各媒体からの取材に積極的に対応し、新たな来客者層の開拓に努めた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 『京都国立博物館だより』などの定期刊行物、ウェブサイトの更新、メールマガジンなど、広報物の刊行を継続して行っている。さらにテレビ・ラジオ・雑誌などに紹介されるよう積極的な広報を実施し、中期計画に対し順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(奈良国立博物館)
1)～7)(略)

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関と連携した広報活動を展開した。
2)特別展や公開講座の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
3)特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月１回計11回）のほか、公式ツイッターを使って発信し、より迅速かつ効率的な広報を行った。

【補足事項】

1)　○名品展及び館全体の広報
・年間を通じて、博物館の活動や魅力を紹介する新聞連載「奈良博手帖」を読売新聞で行った。
・ウェブサイトでの特別展・名品展や館全体の情報を公式ツイッターを使って発信し、効率的な広報を行った。27年度中に、フォロワーが8,000人を超えた。
○特別展「平安古経展」広報
・NHKおよび奈良テレビの番組で展示品の紹介を行った。
○特別展「白鳳」広報
・読売新聞に展覧会内容や展示品の紹介を行った。
・NHKおよび読売テレビの番組で展覧会紹介を行った。
○「第67回正倉院展」広報
・読売新聞で展示品紹介を行った。
・NHK「日曜美術館第67回正倉院展」が放送された。
・読売テレビのニュース番組で展覧会紹介を行った。

公式ツイッター

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、各メディアの協力を得て広報物の制作に努めている。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 公式ツイッターによる情報提供に対し、フォロワーが順調に増加している。他の広報媒体も順調に成果を上げており、中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)(略)
(奈良国立博物館)
1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
3)「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館）での連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
4)周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。
5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。
7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回)
2)ウェブサイトの英語版の他に、中国語・韓国語版の作成について検討を開始した。
3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、27年12月11日に奈良まほろば館にて東京セミナー、28年2月14日に奈良国立博物館にてワークショップを実施した。
4) 周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシ配布を以下のとおり行った。
・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定（28年1月2日～3日）の無料観覧券（※名品展も無料）を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定（28年3月8日～10日）の無料観覧券（※名品展も無料）を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。
5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に応じた。
6)『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
7)特別展では英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。

【補足事項】

奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『奈良国立博物館だより』発行	4回	4回	B		4	4	4	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣美術館や関連社寺と連携しイベントを行い、集客に努めた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通り順調に広報活動を実施することができた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2444

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
2)『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。(年4回)
3)太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回)
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトにて文化交流展示室の展示スケジュール等を掲載し、また研究員が展示の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。(年4回)
3)スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。

【補足事項】
1)・公共交通機関にて、特別展・トピック展示のポスターの掲示、チラシの設置等を行うとともに、「開館10周年」のＰＲも行った。
(例：「九博10周年」と「美の国　日本」の車内吊り広告)
・新聞紙面にて、特別展(「戦国大名」、「大英博物館展」、「美の国　日本」、「黄金のアフガニスタン」、「始皇帝と大兵馬俑」)の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。
・開館記念日の10月16日に新聞各紙に「10周年記念」の広告を一斉掲載するとともに、新聞各紙やテレビ番組などで多くの「10周年記念特集」が組まれた。

車内吊り広告の様子

・「開館10周年」のポスターやロゴマークを作成し、ＰＲに努めた。

季刊情報誌『アジアージュ』

2)・駐車場の混雑や対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
・「今日の博物館」のページを新たに構築し、展示状況が事前にわかるようにした。
・スマートフォンやタブレットに対応するよう、日英両言語のページ表示方法を修正した。
・ウェブサイト利用者からの意見に「九博メール」で対応した。

「開館10周年」ロゴマーク

3)・読者投稿紹介やクイズなど双方向型とした。
・メールマガジン登録数(4,630件、28年3月末現在)は毎月平均100人ずつ増えており、また、平均開封率が10%前後といわれている中、約40%と高水準を維持している。

(九州国立博物館)
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を27年4月1日、7月1日、10月1日、28年1月1日の4回発行した。
○若年層も含めリピーター確保のため『きゅーはく攻略本』を継続して配布した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
九博季刊情報誌『アジアージュ』発行	4回	4回	B		4	4	4	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 来館者・リピーターに対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。『アジアージュ』などの配布先の見直しを行うなどして改善を図った。また、27年度は特に「開館10周年」に関する幅広い告知が行えた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。特に「開館10周年」を迎えた年であったため、県外のマスメディアとも連携し、展示について幅広い告知が行えた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2451

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)

【補足事項】

1)・SNS (Twitter、Facebook)、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。
・Twitterでは、文化庁とTwitter社の連携企画「ミュージアムウィーク」に参加し、毎月、テーマに沿った展示作品を紹介した。
・話題となっている事象（今年度は刀剣）に着目し、SNSで関連作品の紹介を行い、ウェブサイトへの誘導を図った。
・トップページのフラッシュに「博物館に初もうで」などの企画や展示中の名品画像も使用し、各企画や作品の訴求力を高めた。
・年間を通じ、特別展や企画展示など、テーマを絞って展示作品をピックアップした投票コーナーを実施した。特に刀剣作品の投票回では過去最高の票数を記録した。
・所蔵作品をデザインしたポストカードを更新した。
・特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関して中国語のページを設け充実を図った。

・動画「『自在龍置物』を動かしてみた」を公開した。

ウェブサイトの「投票コーナー」
2015 年度トーハクで逢える名刀

動画「自在龍置物」を動かしてみた

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	6,724,460件	－	－		2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 26年度に開発したスマートフォン対応ウェブサイトにより、着実にアクセスの機会が伸びている。またSNSやブログを積極的に活用し多くのアクセスを得た。

【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従いコンテンツ内容の充実とともに、日々新展開するITツールに積極的に対応し、着実にアクセス数を伸ばしている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2452

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	上席研究員　浅見龍介 総務課長　　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1) ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数の向上に努めた。
・ウェブサイトにおいて各種情報の掲載や更新を適宜行い、アクセス件数の向上に努めた。

【補足事項】
1)
・特別展覧会や名品ギャラリーにおける各種展示に係る情報の掲載や更新を逐次行い、内容の充実に努めた。
・各種講座やワークショップなどの教育事業について、情報の掲載や更新を継続的に行った。
・博物館概要、刊行物案内などのページにおいて、発信を適宜行った。また、研究紀要「学叢」については、第 27 号まで PDF を掲載した。
・コンサートや「らくご博物館」などの各種集客イベントについて、情報の掲載や更新を適宜行った。
・メールマガジンを逐次配信し、来館者とアクセス件数の向上に努めた。
・特別展覧会「琳派　京を彩る」や特集陳列「刀剣を楽しむ」に伴う来館者の混雑に対応するため、ソーシャルメディア「Twitter」を通じた混雑状況の発信などを適宜行った。
・特別展覧会「琳派　京を彩る」に伴って各種の情報掲載を頻繁に行い来館者の便宜を図った事で、大幅なアクセス件数の増加が見られた。また、京都では観光上の閑散期となる冬季においても、特集陳列「刀剣を楽しむ」についての情報の掲載や更新によって、これまで博物館に馴染みのなかった新しい層へのアプローチができ、アクセス件数を維持できた。これらの要因によって、平成知新館開館やウェブサイトリニューアルに伴うアクセス件数の激増があった26年度をさらに上回り、統計開始以来の最高値となるアクセス件数を確保した。

トップページ（新春特集陳列）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	3,172,381件	－	－		1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：昭和48年以来の大規模展覧会に対応して相当量の情報掲載を頻繁に行い来館者の便宜を図ったほか、比較的若い世代へのリーチを掘り起こした事で、平成知新館開館に伴うアクセス件数の激増があった26年度をも上回るアクセス件数を確保した。

【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：ボリュームゾーンとなる大規模展覧会に対応し継続的な情報発信を行ったほか、これまで博物館に馴染みのなかった世代に対しても効果的な発信による新規開拓を行い、中期計画期間を通じて最高値となるアクセス件数を確保した。 課題と対応：明治古都館閉館の長期化に伴うアクセス数の低下に備え、引き続き情報発信の充実を図る。

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 2453

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】
(4館共通)
・奈良国立博物館公式ツイッターを立ち上げ、ホームページからリンクを張り、展覧会や、講座等イベント等博物館に関する情報発信をより高い頻度で行った。
・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。
・特別展及び特別陳列を紹介するたびに、主な出陳作品の画像付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。
・『奈良国立博物館だより』最新号をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。
・『第67回正倉院展』の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置し、同時に公式ツイッターからもリンクを張った。

【補足事項】

・奈良国立博物館公式ツイッターのフォロワーが、8,105人（3/31現在）となり、順調に増加している。

ウェブサイトに『奈良国立博物館だより』掲載

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	1,112,057件	－	－		722,249	845,202	893,553	1,196,669

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、イベント情報等の充実に努めた。またツイッターのフォロワーも増加している。

【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ツイッターからのリンクや、サイト情報の充実と利便性の向上を図り、中期計画開始時よりアクセス件数が向上した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2454

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)ウェブサイトにおいて特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、内容の充実を図った。
・研究員が展覧会の解説を行う動画の配信を行った。
・駐車場空き情報の提供を行った。
・博物館までのアクセスについて、最寄り駅からの情報を追加掲載し、利便性の向上を図った。
・「今日の博物館」のページを新たに構築し、来館希望日の展示・イベント情報を手軽に入手できるようにした。
・増加するスマートフォン、タブレット利用者に対応した表示方法を採用した。

【補足事項】
1)
・来館前の情報提供の一環として、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を提供した。
・来館方法のうち、利用が最も多い西鉄太宰府駅から博物館までの道順について、ウェブサイト内に写真付きで新たに案内を掲載することで、利用者にとって使いやすい環境を向上させた。
・これまでの「年間スケジュール」を発展させ、「今日の博物館」のページを新たに構築した。これにより、来館者が来館希望日に開催されている展示・催事等を一目で感覚的に閲覧することができるようになり、来館者の促進に繋がった。
・スマートフォンやタブレットに対応するよう、日英両言語のページ表示方法を修正した。これにより、増加するスマートフォン・タブレット利用者の利便性の向上に繋がった。

ウェブサイト掲載の太宰府駅から
博物館までのアクセス方法

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	2,217,391件	－	－		1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトの充実を図り、閲覧者が興味をもつホームページの作成を行った。

【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数の向上を図るため、特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、また研究員が展覧会の解説を行う動画の配信など内容の充実を推進し、中期計画期間内でアクセス件数を向上させた。